

# 名古屋市精神保健福祉センター所報

第24巻 令和6年度版（2024年度版）

名古屋市

## はじめに

日頃より名古屋市精神保健福祉センターの事業につきましてご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。令和6年度版の所報をお届けいたします。

名古屋市におきましては、障害のある人もない人も共に生きる社会の実現を目指し、2019年(平成31年)4月に「名古屋市障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例」を施行し、地域社会における障害者の権利を保護し、共生社会の構築に向けた重要な一歩を踏み出しました。その後、令和6年3月には、より高い効果を上げるために「名古屋市障害者基本計画(第5次)」と「第7期名古屋市障害福祉計画・第3期名古屋市障害児福祉計画」を一体的に策定し、これらの施策を総合的に進めております。

これらの計画は、障害のある方々がその個性と人格を尊重され、誰もが共に暮らすことのできる社会を実現するために重要な役割を果たしています。特に、障害者の社会参加を促進し、地域の中でより自立した生活ができるようにするための施策が盛り込まれており、今後も一層の効果的な推進が求められています。

また、令和4年12月には、障害者等の地域生活や就労の支援を強化し、障害のある方々が希望する生活を実現できるようにするための法改正が行われ、精神保健福祉法を含む「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等の一部を改正する法律」が成立しました。この改正は、障害者が日常生活をより円滑に送るための支援体制を充実させるとともに、就労機会の拡充や地域での生活支援をさらに強化するものです。令和5年4月に一部が施行され、令和6年4月には完全施行となり、障害者に対する包括的な支援の新たな枠組みが整いました。

当センターにおいても、これらの計画や法改正を踏まえ、障害のある方々が地域社会の中で安心して生活できるよう、さまざまな相談や事業を行っております。

一方で、近年、若年層を中心にひきこもりや依存症の問題が増加傾向にあり、ひきこもり相談や依存症に関する相談が増え、若者が抱える精神的な問題や社会との接点を持たないことが、深刻な社会的な課題となっています。これらの問題に対しては、早期の相談支援と共に、個別に対応することが重要であり、当センターでもそのニーズに対応した支援を強化しています。

障害のある方々をはじめ、ひきこもりや依存症に悩む若年層の方々も、地域社会の一員として共に生きることができるとともに、市民一人ひとりの理解と協力が欠かせません。障害や問題を抱える方々がその個性や人格を尊重され、誰もが共に尊重し合い、支え合う地域社会を目指して、引き続き地域との連携を深めながら、より実効性のある支援策を提供していきたいと考えております。

これからも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年9月

名古屋市精神保健福祉センター所長  
宇佐美 寿江

# 目 次

## 第1章

基本理念、愛称公募・選定、沿革	1
答申・報告	6
施設	10
組織	12
予算・決算	13

## 第2章

企画立案	15
技術援助	16
人材育成	19
普及啓発	30
調査研究	34
精神保健福祉相談	35
組織育成	41
自殺対策	44
精神医療審査会の事務	48
精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の判定	52
依存症対策	58
ひきこもり地域支援センター	69

## 第1章

---

基本理念

愛称公募・選定

沿革

答申・報告

施設

組織

予算・決算

## 基本理念

平成15年7月に「名古屋市精神保健福祉センター基本理念」を制定した。

### 名古屋市精神保健福祉センター基本理念

名古屋市精神保健福祉センターは、市民の精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図ること、並びにライフスタイルのあらゆる段階に生じる精神保健福祉に関する問題の解決を、市民が相互に支援することができる、地域社会づくりを促進していくことを目指します。

## 愛称公募・選定

### 1 愛称公募

精神保健福祉センターがより広く市民に親しまれ、気軽に利用できるように、精神保健福祉センター内に愛称募集事務局を設置し、平成18年9月から平成18年12月まで市民への公募をおこなった。

### 2 愛称選定

平成19年2月27日に名古屋市精神保健福祉センター愛称選定委員会を開催し、40名57案の中から「こころぼ」が選定された。「こころぼ」とは、心とcollaborate（共同で仕事する、協力する）をかけた造語であり、心の健康について、いろいろな人と一緒に取り組んでいけたらという思いを込めている。

## 1 略譜（詳細は本所報第1巻を参照）

平成5～7年度	名古屋市精神保健指導センターあおぼの里基本調査
平成6年3月	名古屋市精神保健対策検討会設置
平成6年11月	名古屋市精神保健対策検討会提言「今後の精神保健対策について－大都市特例への対応を中心に－」において、本市の地域精神保健対策の拠点となる精神保健センターの整備の必要性が記載される。
平成6年11月	「名古屋市障害者福祉新長期計画」において、精神保健に関する総合的技術センターとして、地域精神保健活動推進の中核となる機能を備えたものを整備する必要性が記載される。
平成7年3月	名古屋市精神保健指導センターあおぼの里での精神科デイケアを休診する。
平成7年度	名古屋市精神保健指導センターあおぼの里の基本調査が精神保健センターの基本調査に変更
平成7年8月	精神科デイケア検討会を設置し、今後の精神科デイケアのあり方について検討を行う。
平成7年9月	「名古屋市第3次推進計画」において、平成7年～9年度に精神保健福祉センターの設置の検討が計画される。
平成8年3月	精神科デイケア検討会から「今後の名古屋市精神保健指導センターのデイケアについて」提言
平成8年度	基本設計
平成8年4月	名古屋市精神保健指導センターあおぼの里を当面の間、休止とする。
平成8年4月	名古屋市精神保健福祉審議会設置。審議会に名古屋市における地域精神保健福祉施策について諮問
平成8年12月	審議会から「名古屋市の精神保健福祉センターについて－都市型の地域精神保健福祉施策の推進について－」答申。3つの基本的機能が求められるとともに、基本的考え方が示される。
平成9年3月	精神保健福祉センター業務検討会設置
平成9年度	実施設計
平成9年8月	精神保健福祉センター業務検討会報告。本市の精神保健福祉センターが志向すべき基本姿勢が示されるとともに、具体的に精神保健福祉センター業務がまとめられる。
平成10年7月	名古屋市精神保健指導センターあおぼの里等解体工事開始
平成10年12月25日	起工式
平成10年12月	建築工事（～平成12月11月工事期間24か月）
平成11年11月	わかばの里デイケア評価検討会設置
平成12年3月	名古屋市精神保健福祉センター条例公布
平成12年3月	わかばの里デイケア評価検討会報告。公設デイケアについてパイ

	ロットのデイケア等のコンセプトが示される。
平成12年4月	健康福祉局障害福祉部障害福祉課に精神保健福祉センター開設準備担当の主事2名を配置
平成12年11月17日	開所式（中村保健所等複合施設合同開所式）
平成12年12月1日	名古屋市精神保健福祉センター開所 <u>【1係1主査10人体制】</u>
平成13年3月	名古屋市精神保健指導センター条例廃止
平成13年4月	主事2名を増員。全面的な業務開始 <u>【2係12人体制】</u>
平成14年4月	主事1名を増員。精神医療審査会及び精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療（精神通院医療）判定事務が移管される。 <u>【2係13人体制】</u>
平成15年4月	主事1名を増員 <u>【2係14人体制】</u>
平成15年7月	「名古屋市精神保健福祉センター基本理念」を制定
平成16年4月	精神医療審査会合議体を増（3合議体→4合議体）
平成18年9月	愛称の公募
平成19年2月	愛称「こころらぼ」の選定
平成19年4月	ひきこもり施策及び自殺対策施策の事務開始
平成23年5月	精神保健福祉センター業務検討会設置
平成24年1月	精神保健福祉センター業務検討会報告。今後の精神保健福祉センターの業務のあり方がまとめられる。
平成24年4月	機構改革（管理係・支援係）。主事1名を減員。ひきこもり支援コーディネーター（嘱託員）2名を配置 <u>【2係1主査13人体制】</u>
平成24年5月	ひきこもり地域支援センター開設
平成25年4月	精神医療審査会の退院等請求窓口が移管される。
平成29年4月	精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療（精神通院医療）担当（嘱託員）1名を配置
平成30年6月	依存症相談員（嘱託員）2名を配置
平成30年7月	依存症相談拠点として位置付け、専用電話設置及び依存症関連事業の拡充
令和2年4月	機構改革（管理係1係制）。副所長（管理係長事務取扱）、主査（支援）を配置 <u>【1係2主査13人体制】</u> 会計年度任用職員制度の導入。それまでの嘱託員にかわり、会計年度ひきこもり支援コーディネーター2名、会計年度依存症相談員2名、会計年度精神障害者保健福祉手帳等判定事務専門員2名（うち、1名は増員）を配置
令和3年4月	会計年度ひきこもり支援コーディネーター1名を増員
令和4年4月	会計年度依存症相談員1名を増員
令和5年4月	業務士1名、会計年度内部事務員1名を増員。中村保健センター移転(令和5年1月)に伴い、庁舎管理業務が移管される。 <u>【1係2主査14人体制】</u> 常勤の精神科医師が不在となったため、非常勤の精神科医師を参

令和6年4月

与として委嘱

名古屋市全体の組織体制変更（係の廃止）に伴い、管理係長は所長補佐（管理）、主査（支援）は所長補佐（支援）と変更  
機構改革により、主査（精神医療）を廃止し、担当課長（精神医療）を配置

保健師（ひきこもり支援担当）1名、会計年度ひきこもり支援コーディネーター1名を増員

主事1名を増員。精神医療審査会合議体を増（4合議体→5合議体）。精神保健福祉法改正による精神医療審査会審査件数の増加見込に対応するため 【1担当課長2所長補佐16人体制】

## 2 事業体系

令和6年度	
企画立案	関係会議参加
技術援助	事例検討 講師派遣
人材育成	精神保健福祉関係職員研修 思春期精神保健関係者研修 こころの健康電話相談員研修 認知行動療法普及研修 グリーンケア研修 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修 精神障害者ピアサポーター養成研修 ピアサポーターフォローアップ研修 災害時精神医療活動研修 愛知県医療観察制度研修 精神保健福祉援助実習(学生実習) 公認心理師養成のための心理実習 医師臨床研修 医薬看連携地域参加型学習
普及啓発	情報誌「こころばNAGOYA」 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 思春期精神保健リーフレットの発行 こころば疾患ガイド グリーンケア関連リーフレット ウェブサイト運営、SNSを利用した情報提供
調査研究	特定の課題に関する調査
精神保健福祉相談	精神保健福祉相談 思春期の精神保健相談(4/月) こころの健康電話相談 ネット・ゲームとの付き合い方を考える家族のつどい
組織育成	愛知県精神保健福祉協会
自殺対策	こころの健康フェスタなごや 自死遺族相談(1/月) 自死遺族関連リーフレット
精神医療審査会	事務の実施
公費負担・手帳の判定	判定の実施
依存症対策	アルコール問題関係者連絡協議会 薬物問題関係機関連絡会議 依存症相談(5/月) 司法書士による債務等相談会 依存症基礎講座 ギャンブル問題関係者研修 依存症リーフレット 名古屋市嗜癖問題支援機関リスト アディクション・セッション 依存症講演会 なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム(NAT-G) 依存症家族教室 依存症家族のつどい
ひきこもり地域支援センター	運営 ひきこもり相談 ひきこもり家族教室 ひきこもりを考える家族のつどい 居場所「ねこもりルーム」の運営 ひきこもり支援セミナー ひきこもり支援関係団体連絡会議 ひきこもり支援ガイドマップ 家族向けパンフレット 家族向けコミュニケーションプログラム ひきこもり講演会 ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣 ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修

1 名古屋市精神保健福祉審議会答申（平成8年12月）

「名古屋市の精神保健福祉センターについて－都市型の地域精神保健福祉施策の推進について－」

(1) 名古屋市の精神保健福祉センターの3つの基本的機能

企画調整機能	市域全体を見渡す広い視野を持ちつつ、県の精神保健福祉センターや関係諸領域との連携・協力に主体的に取り組む企画調整機能が必要
情報センター機能	市内外の精神保健福祉情報の収集・調査といった精神保健福祉に関する様々な情報の収集及び提供といった情報センター機能が必要
診療及び高次の相談機能	第一線の相談機関を支えていくために、高い技術力を持った相談機能が必要

(2) 名古屋市の精神保健福祉センターの基本的考え方

目的	精神保健福祉センターは、センターの業務を通じて、市民が、都市の特徴である個人を基調とした社会において、ライフサイクルのあらゆるステージに生じる精神保健福祉に関する問題の解決を相互に支援する能力を有する地域社会づくりを職域や学域を含めて促進していくことを目的とする。
保健所との関係	精神保健福祉センターは、名古屋市内で活動する機関（保健所を含む）、組織、団体、施設に対する技術援助等を主たる業務とし、直接対人サービスについては保健所で対応することを基本とする。 しかし、時間外や複雑困難事例においては、保健所機能を補完するという範囲で直接センターが対応する。 また、精神保健福祉センターは、必要に応じて地域や関係機関と連携を図りつつ、精神保健福祉に関する新たな課題に先駆的に取り組み、蓄積した技術や経験を保健所に敷衍する。 さらに、外国人の精神保健福祉や精神障害者の権利擁護の問題、あるいは災害時のメンタルヘルスケアやいじめなど、保健所では対応困難な課題に対しては精神保健福祉センターが中心となって対応する。
デイケアの実施	現在、名古屋市は精神保健指導センターでデイケアを実施しているが、厚生省保健医療局長通知「精神保健福祉センター運営要領」（「センターは、診察機能や、デイケア、社会復帰施設等のリハビリテーション機能を持つことが望ましい。」）にのっとり、精神保健指導センターを精神保健福祉センターのデイケア部門として位置付けて、業務を引き継ぐ。

## 2 精神保健福祉センター業務検討会報告（平成9年8月）

名古屋市の精神保健福祉センターが常に志向すべき3つの基本姿勢

ネットワークづくり	地域における精神保健福祉に関する活動は、地域住民の精神的健康の保持増進、精神障害の予防、適切な精神医療の推進から、社会復帰の促進、自立と社会経済活動への参加の促進のための援助に至るまで広範囲にわたっており、関係する機関、施設等も多種多様である。そのため、効率的かつ効果的にサービスを供給するには、調整能力を持ったネットワークが必要となる。精神保健福祉センターは、要領に「地域精神保健福祉活動推進の中核となる機能を備えなければならない。」と規定されていることから、本市のセンターは、常に関係機関等との連携、共働を念頭に置いた事業展開を図るとともに、ネットワークづくりを主体的に担っていくべきである。
先駆的な事業の計画的な展開	本市の精神保健福祉センターは、ネットワークを通して、地域における精神保健福祉に関するニーズや課題を包括的に把握しうる位置にある。また、精神保健福祉センターは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する総合的技術センター」と要領に規定されている。この2点から、本市センターはネットワークを通じて地域のニーズや課題を的確に把握し、それに対応するための短中期的な事業計画を策定し、先駆的なモデル事業を3年から5年程度の時限で実施する。そして、その事業の成果は関係諸機関に積極的に普及、還元していくものとする。このようにして、センター自身は常に先駆的な事業に取り組んでいく。
市民に開かれた精神保健福祉センター	精神保健福祉センターは、精神保健福祉に関する関係諸機関を対象に業務を実施するとともに、市民を直接対象にする業務をも併せ持つ。このため、市民参加型の事業や、市民が利用しやすい情報提供の方策等を追求し、市民に開かれた、わかりやすいセンターにしていく必要がある。また、精神保健福祉センターの名称（愛称）についても、親しみやすくするよう配慮が必要である。

## 3 精神保健福祉センター業務検討会報告（平成24年1月）

(1) 3つの基本的な方向性

精神医療審査会及び手帳等判定などの専門業務の強化	増加する審査件数や判定件数に適切かつ迅速に対応できるよう、専門業務としての独立性・効率性を強化した体制を確保する。
人材育成及び地域づくりの促進	地域精神保健福祉に携わる人材を育成するとともに、関係機関等との連携、協同を念頭に置いた事業を展開し、ネットワークづくりを主体的に担い、地域社会づくりを促進する
地域に出かけ第一線機関を後方支援する体制の構築	複雑困難事例について、第一線の相談機関を支えていくために、後方支援機関として、より専門的かつ高い技術力をもって、地域へ出かけ支援する体制を構築する。

※上記と併せて、「3つの基本的機能」（審議会答申）の更なる推進を図る。

(2) 基本的な方向性を具体化するための方策

業務の見直し及び事務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られたマンパワーを有効活用するために、他施策や民間事業等の類似事業や、ニーズの薄まった事業を廃止・統合。</li> <li>・事務事業への嘱託職員を登用及び外部への事業委託。</li> </ul>
精神科デイケアの発展的移行・先進事業の試行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業と類似する「精神科デイケア」については、「集団精神療法」、「集団認知行動療法」等により先駆的な診療業務への移行を検討。</li> </ul>
組織体制の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本庁所管課との業務分担を機能面・効率性の観点から再検証し、センターの組織を再編。本庁組織体制も併せて検討。</li> <li>・新たなニーズへの対応として、センター内にこころの健康対応を重視した「ひきこもり地域支援センター」の設置を検討。</li> </ul>
センター業務の重責に見合った人材の配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域精神保健福祉の中核的技術機関として、専門性を発揮するとともに、第一線の相談機関を後方支援する組織として、その職務の重責に見合った人材を配置するとともに、OB職員に限らず経験豊かな人材（嘱託員など）を登用。</li> </ul>

4 精神保健福祉業務実施体制検討会報告（平成31年3月）

(1) 検討の趣旨

平成30年度より第5期障害福祉計画に基づき、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み」を実施する中、平成30年度より1保健所16保健所支所体制に移行し、さらには平成32年度の障害福祉窓口の一元化の方向性が示されている状況を踏まえ、保健センターにおける本市の精神保健福祉に関する業務のあり方及び実施体制について、改めて整理検討を行った。

(2) 地域精神保健活動の基本的な方向性

方向性	具体的な取り組み
地域住民の近くで第一線の相談機関としての相談業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種協同による、未受診者・治療中断者等、必要な支援が届いていないケースに対する保健型アウトリーチを中心とした支援</li> <li>・精神科救急事案へのファーストコンタクトとしての支援及び継続的なフォローアップ等</li> </ul>
地域の社会資源とネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉関係者及び地域住民との「顔の見える」関係づくり</li> <li>・保健・医療・福祉関係者とのネットワークの構築等</li> </ul>

人材育成・事業者育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者支援の質を確保するための、保健医療福祉関係者の育成等</li> </ul>
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス全般の早期発見と介入ができるよう、こころの健康や精神障害に関する啓発</li> <li>・地域住民に対する精神障害者への理解促進のための普及啓発等</li> </ul>

(3) 方向性を具現化するための必要な仕組みと方策

仕組みと方策	具体的な取り組み
相談員と保健師が協同する仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健やケースに関する協議の場の設置</li> <li>・こころの健康相談日や家族教室等の保健センター事業の協同実施等</li> </ul>
精神保健に関するライン体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センター内における多職種チームによる協同体制の促進</li> <li>・他部署や他機関など対外的な調整</li> <li>・精神保健に携わる職員のキャリアラダーの形成等</li> </ul>
保健センターをバックアップする体制（精神保健福祉センターの機能強化）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域へ出かけて行き、保健センターへのライブスーパービジョン機能</li> <li>・精神保健に関する研修等の人材育成に関するノウハウを提供する機能等</li> </ul>

# 施設

## 1 場所

名古屋市中村区名楽町4丁目7番地の18 名楽福祉会館等複合施設5階

## 2 建物・面積

### (1) 構造

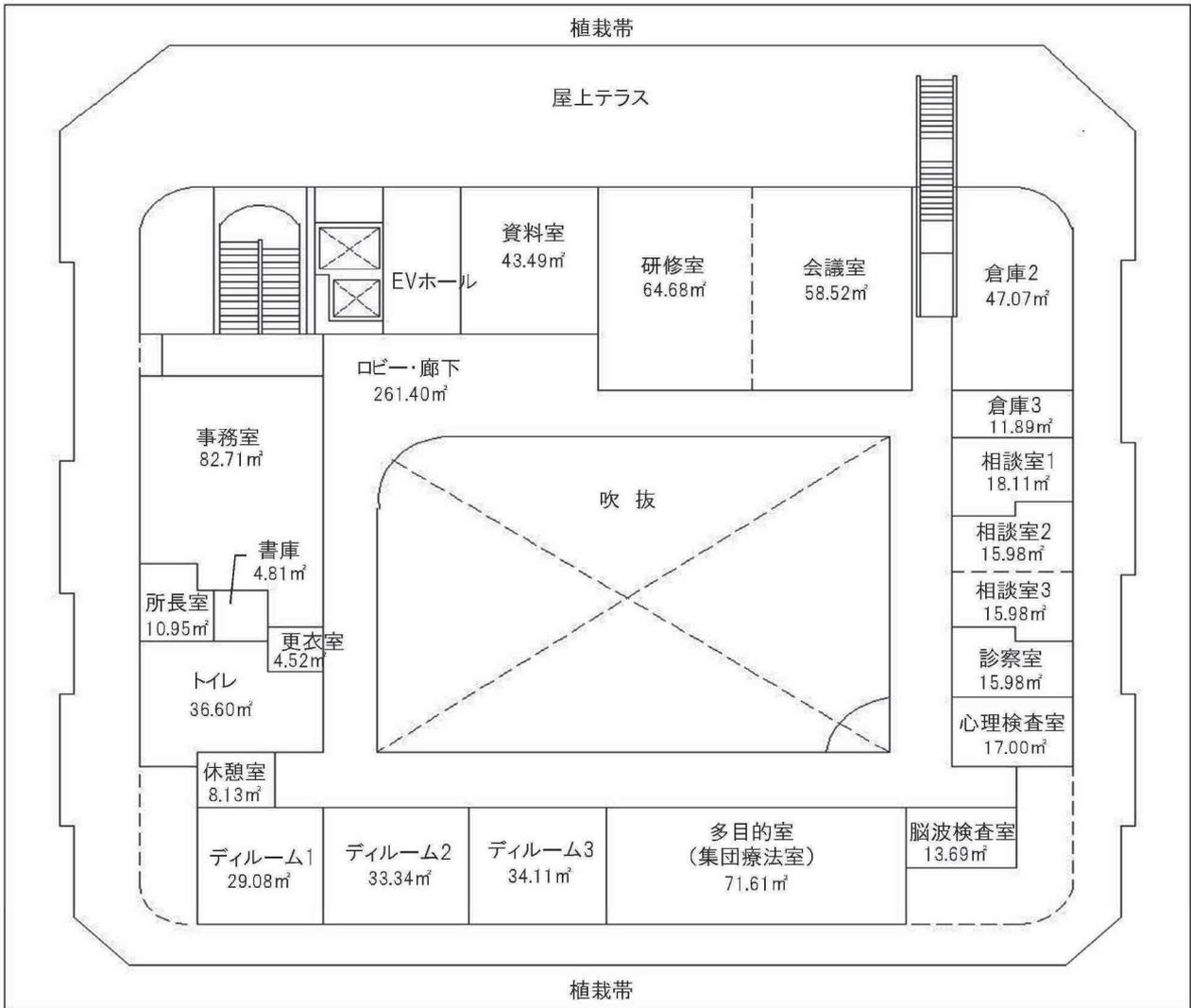
鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地下1階・地上5階建

### (2) 面積

区分	面積	備考
名楽福祉会館等複合施設 敷地面積	5,539.06m <sup>2</sup>	
建築面積	2,761.43m <sup>2</sup>	
延床全体面積	10,026.52m <sup>2</sup>	
5階面積	1,040.35m <sup>2</sup>	
精神保健福祉センター面積	1,035.88m <sup>2</sup>	
専用面積	928.53m <sup>2</sup>	他施設との共用按分面積を除く
部屋面積	667.13m <sup>2</sup>	ロビー、廊下を除く
所長室	10.95m <sup>2</sup>	
事務室	82.71m <sup>2</sup>	
更衣室	4.52m <sup>2</sup>	
書庫	4.81m <sup>2</sup>	
診察室	15.98m <sup>2</sup>	
相談室1	18.11m <sup>2</sup>	
相談室2	15.98m <sup>2</sup>	
相談室3	15.98m <sup>2</sup>	
心理検査室	17.00m <sup>2</sup>	
脳波検査室	13.69m <sup>2</sup>	
資料室	43.49m <sup>2</sup>	
研修室	64.68m <sup>2</sup>	
会議室	58.52m <sup>2</sup>	
デイルーム1	29.08m <sup>2</sup>	
デイルーム2	33.34m <sup>2</sup>	
デイルーム3	34.11m <sup>2</sup>	
多目的室（集団療法室）	71.61m <sup>2</sup>	
休憩室	8.13m <sup>2</sup>	
便所	36.60m <sup>2</sup>	
倉庫2	47.07m <sup>2</sup>	
倉庫3	11.89m <sup>2</sup>	
地下室倉庫	28.88m <sup>2</sup>	
ロビー・廊下	261.40m <sup>2</sup>	
機械室、EV、階段等	107.35m <sup>2</sup>	

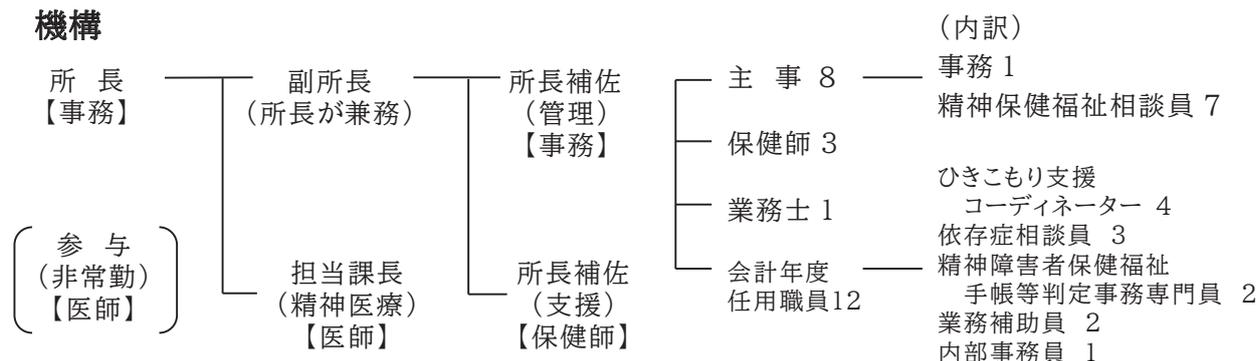
### 3 平面図

#### 精神保健福祉センター平面図



# 組織（令和6年4月1日現在）

## 1 機構



## 2 職員構成

雇用形態	職 種		人数	備 考
職 員	事務職員	主事（事務）	3名	所長、所長補佐（管理）含む
		主事（精神保健福祉相談員）	7名	
	技術職員	医師	1名	担当課長（精神医療）
		保健師	4名	所長補佐（支援）含む
		業務士	1名	
小 計		16名		
会計年度 任用職員	ひきこもり支援コーディネーター		4名	ひきこもり地域支援センター担当
	依存症相談員		3名	依存症担当
	精神障害者保健福祉 手帳等判定事務専門員		2名	自立支援・手帳担当
	内部事務員		1名	
	業務補助員		2名	
小 計		12名		
合 計			28名	

## 3 附属機関委員

職 種		人数	備 考
精神医療審査会	医療委員	20名	当センターが事務局を担当している本市の附属機関
	法律家委員	9名	
	有識者委員	9名	
合 計		38名	

## 4 各種相談員・委員等

職 種		人数
特定相談員	医師	4名
	臨床心理士	3名
	精神保健福祉士	2名
	司法書士	1団体
	ピア相談員	3団体
こころの健康電話相談員		14名
精神障害者保健福祉手帳等判定委員		14名
小 計		4団体37名

## 予算・決算

令和6年度 精神保健福祉センター 予算・決算

### 1 精神保健福祉センターの運営

節	当初予算額	予算現額	決算額
報酬	14,027,000	14,811,000	14,711,578
共済費（会計年度職員等）	1,875,000	1,640,600	1,640,596
報償費	4,659,000	4,165,000	4,164,100
旅費	1,049,000	716,500	715,476
需用費	46,600,000	45,629,930	45,623,715
役務費	1,234,000	1,076,520	1,075,125
委託料	2,961,000	2,807,000	2,341,098
使用料及び賃借料	2,038,000	1,716,000	1,090,056
工事請負費	350,000	1,698,000	1,697,840
備品購入費	1,249,000	506,550	506,533
負担金補助及び交付金	95,000	88,000	88,000
精神保健福祉センターの運営 計	76,137,000	74,855,100	73,654,117

### 2 ひきこもり地域支援センター（※ 精神保健福祉センター執行分）

節	当初予算額	予算現額	決算額
報酬	12,212,000	13,123,000	13,122,974
共済費（会計年度職員等）	2,176,000	1,904,000	1,903,996
報償費	710,000	593,000	569,600
旅費	895,000	700,000	699,236
需用費	627,000	411,000	335,906
役務費	161,000	104,000	103,147
委託料	1,857,000	1,393,000	1,392,037
使用料及び賃借料	111,000	155,210	155,210
備品購入費	53,000	0	0
負担金補助及び交付金	5,000	3,000	3,000
ひきこもり地域支援センター 計	18,807,000	18,386,210	18,285,106

### 3 依存症対策事業 (※ 精神保健福祉センター執行分)

節	当初予算額	予算現額	決算額
報酬	9,159,000	9,842,000	9,841,980
共済費(会計年度職員等)	1,632,000	1,428,000	1,427,997
報償費	1,521,000	1,017,000	1,016,800
旅費	817,000	442,000	441,737
需用費	327,000	327,000	288,678
役務費	162,000	54,000	53,994
委託料	2,604,000	2,604,000	1,630,960
負担金補助及び交付金	18,000	0	0
依存症対策事業計	16,240,000	15,714,000	14,702,146

### 4 その他の事業費 (※ 精神保健福祉センター執行分)

事業名	当初予算額	予算現額	決算額
医療審査会費	8,420,000	8,030,000	6,867,197
手帳等事務費	6,506,000	6,219,000	5,709,230
自殺対策事業	5,589,000	5,589,000	5,467,398
精神障害者ピアサポート活用事業	260,000	74,000	73,828
支援技術普及研修(認知行動療法)	512,000	149,000	114,805
公衆衛生総務費(医師研究費)	210,000	210,000	163,759
社会福祉総務費(執務室の改善)	0	493,000	492,575

## 第2章

---

企画立案

技術援助

人材育成

普及啓発

調査研究

精神保健福祉相談

組織育成

自殺対策

精神医療審査会の事務

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）の判定

依存症対策

ひきこもり地域支援センター

## 企画立案

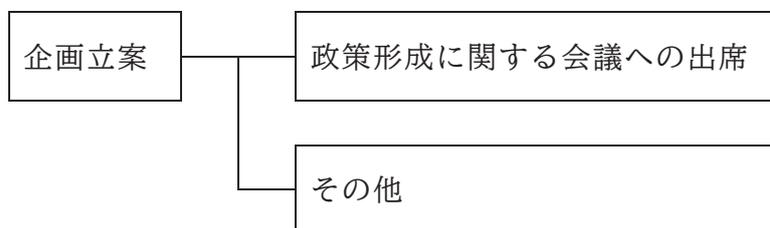
### 1 趣旨

地域精神保健福祉を推進するため、本市の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

### 2 概況

令和6年度は、名古屋市障害者施策推進協議会をはじめとする各種会議へ職員を派遣し、本市の障害者福祉施策、精神保健福祉施策の検討に参画した。

### 3 体系



#### 政策形成に関する会議への出席

※ 別途、P17-18「技術援助（会議等への出席）」に記載

## 技術援助

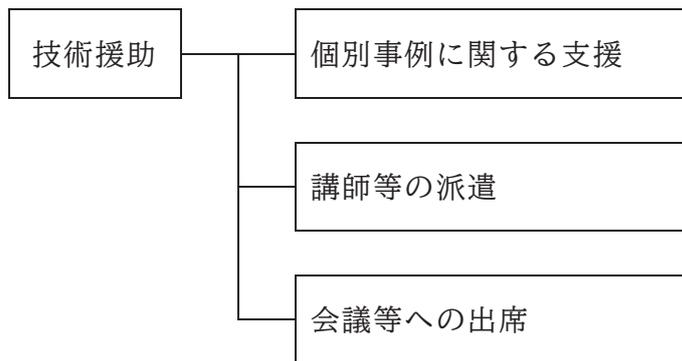
### 1 趣旨

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健センター及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

### 2 概況

令和6年度は、個別事例に関する支援や講師等の派遣、会議等への出席を行った。

### 3 体系



### 個別事例に関する支援

関係機関等に対して、個別事例や事業企画への助言等を行った。

区分	高齢期	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	こころの健康づくり	ひきこもり	その他	計
保健センター	0	21	3	0	0	1	5	4	1	2	37
区役所	1	18	6	5	0	0	1	12	3	14	60
福祉事務所	0	29	0	2	0	0	2	4	2	0	39
医療施設	1	10	3	3	4	0	2	3	2	4	32
障害者支援施設	0	12	1	1	0	0	0	1	5	2	22
社会福祉施設	0	5	1	0	0	0	1	3	18	3	31
その他	1	53	5	4	2	1	2	9	5	10	92
計	3	148	19	15	6	2	13	36	36	35	313

## 講師等の派遣

関係機関の主催する事業等へ講師・助言者として職員を派遣した。

派遣事業・演題等	主催者
引受人会「名古屋市精神保健福祉センターでの家族支援」	名古屋保護観察所
事例検討会における助言・講評	中川区自立支援協議会
研修会「ひきこもりの理解と対応」	守山区自立支援協議会
名古屋市精神保健福祉センターの依存症対策について	名古屋刑務所
福祉コンシェルジュ研修	健康福祉局総務課
ひとり親家庭支援担当研修会	子ども青少年局 子ども未来企画課
認知症カフェボランティア研修会「ひきこもりの理解について」	まちかど保健室
薬物依存離脱指導（専門プログラム）単元10「仕事と回復」	名古屋刑務所
ギャンブル依存症回復指導プログラム（選択プログラム）単元1「社会資源の照会①」	名古屋刑務所
「保護者勉強会」	なごや若者サポートステーション
かかりつけ医等心の対応力向上研修 「名古屋市における思春期相談窓口の取組と相談状況の概要」	名古屋市医師会
ひきこもり支援者交流会	千種区自立支援協議会
精神保健医療福祉制度論（博士前期課程）	名古屋市立大学大学院 看護学研究科

## 会議等への出席

本市域の精神保健福祉活動の活性化のため、関係機関が主催する精神保健福祉に関する会議等へ参加、事務従事を行った。

会議名	分野	回数
愛知県精神保健福祉協会理事会・総会	心の健康	1
名古屋市精神保健福祉審議会	社会復帰	1
名古屋市精神障害者支援地域調整会議	社会復帰	2
障害者支援施設愛知県及び名古屋市意見交換会	社会復帰	1
愛知県医療観察制度地域処遇運営連絡協議会及び幹事会	社会復帰	3
医療観察法ケア会議・個別ケース会議	社会復帰	47
自死遺族カウンセリング名古屋大学との懇話会	自殺関連	1
自死遺族カウンセリング中京大学との懇話会	自殺関連	1
名古屋市自殺対策連絡協議会及び市内連絡会議	自殺関連	3
名古屋市自殺対策関係相談機関等ネットワーク会議	自殺関連	1
こころの健康フェスタ打合せ等	自殺関連	10
ひきこもり支援関係団体連絡会議	ひきこもり	2
千種区ひきこもり支援交流会	ひきこもり	1
千種区ひきこもり支援方針策定部会	ひきこもり	1
中村区重層的支援体制整備事業区連携会議	社会復帰	2
重層的支援体制整備事業懇談会	社会復帰	3
重層的支援事例会議	ひきこもり	1
重層的支援事例会議	社会復帰	1
ひきこもり支援団体連携打ち合わせ	ひきこもり	3
全国精神保健福祉センター長会・研究協議会・大都市部会・ブロック会議	社会復帰	7
名古屋市障害者就労支援推進会議	社会復帰	1
障害者雇用支援連絡協議会	社会復帰	1
ワークダイバーシティin名古屋ネットワーク会議	社会復帰	1
名古屋市障害者施策推進協議会	社会復帰	2
名古屋市精神科嘱託医会	社会復帰	1
愛知県高次脳機能障害支援普及事業	社会復帰	2
名古屋市発達障害者支援体制整備検討委員会	社会復帰	1
名古屋市生活困窮者自立支援連絡会議	社会復帰	1
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業関連会議	社会復帰	31
アルコール関係機関連絡協議会	アルコール	3
薬物依存症回復ネットワーク会議	薬物	4
薬物連絡会議	薬物	1
ギャンブル等依存症対策関係機関連絡会議	ギャンブル	1
依存症等全国会議	薬物	1
東海北陸厚生局麻薬取締部連絡会議	薬物	1
東海北陸地区薬物中毒対策連絡会議	薬物	1
あした天気にな～れ・実行委員会	心の健康	5
名古屋市精神障害者家族会連合会総会・勉強会	社会復帰	2

# 人材育成

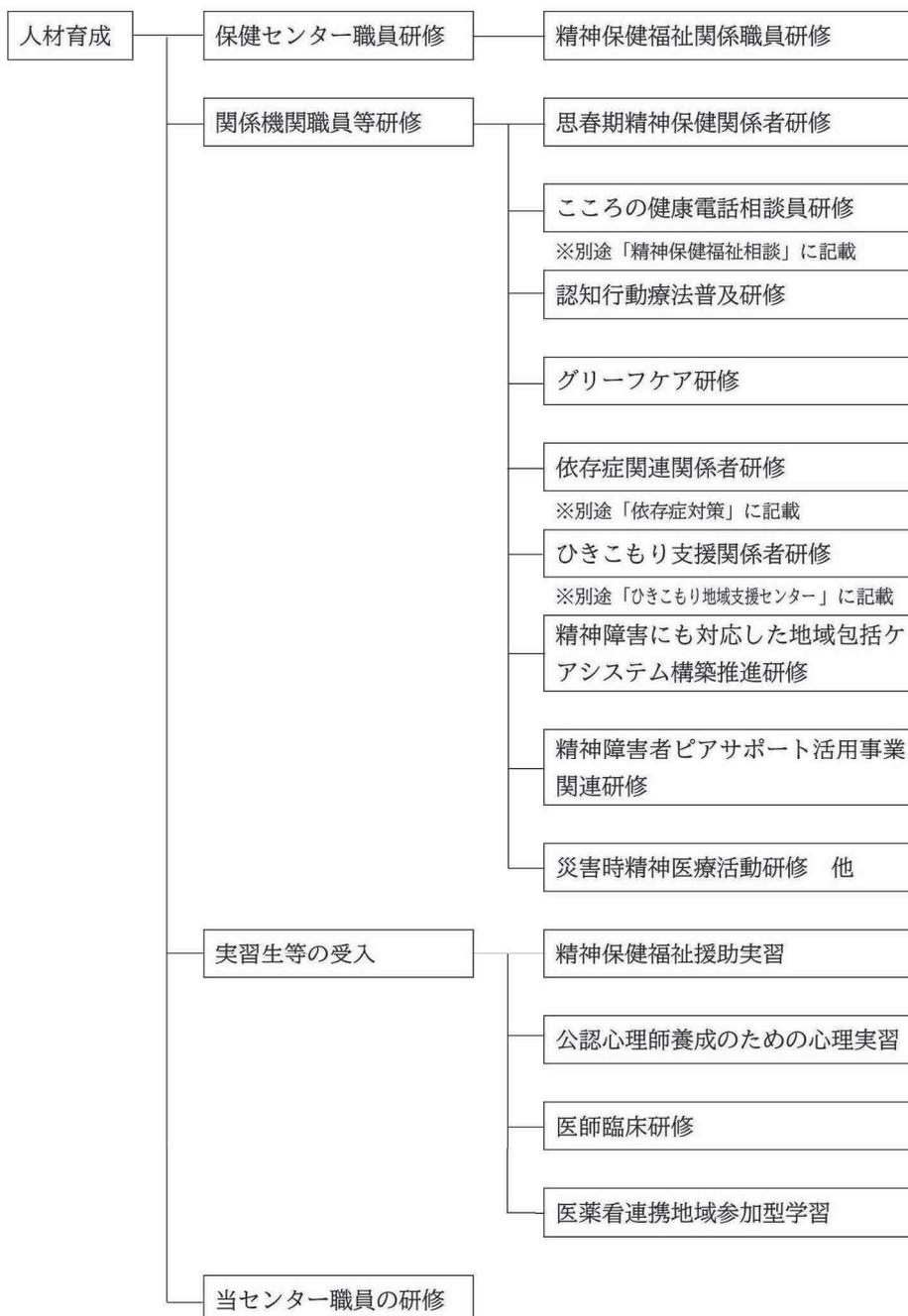
## 1 趣旨

保健センター、福祉事務所、障害者総合支援法に規定する障害福祉サービスを行う事業所等その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の人材育成を行い、技術的水準の向上を図る。

## 2 概況

令和6年度は、保健センター職員研修、関係機関職員等研修、実習生等の受入及び当センター職員への研修を行った。

## 3 体系



## 精神保健福祉関係職員研修

### 1 趣旨

精神保健福祉に関係する職員に対してさまざまな研修を実施し、業務上必要な基本的知識の理解及び援助技術の習得を図るもの。

### 2 実績

(1) 講義 (会場：名古屋市精神保健福祉センター 「※オンライン開催」とあるもの以外)

実施日	内 容	参加
4月10日	・精神科医療の概要と緊急対応を要する精神症状 ・精神科救急（措置入院等）について ・精神保健福祉センター業務について	44名
4月18日	講師：精神保健福祉センター職員、健康部健康増進課職員 (※オンライン開催)	39名
5月31日	・保健センターの精神保健福祉業務について ・名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取組について ・精神保健福祉センター業務、ひきこもり支援、依存症相談窓口について 講師：熱田保健センター精神保健福祉相談員 健康部健康増進課職員、精神保健福祉センター職員	12名
6月14日	・事例検討の進め方、ファシリテーションの技術について 講師：三方原病院 精神保健福祉士 平野 慎一朗 氏	20名
6月19日	・精神保健福祉センター業務について ・依存症相談窓口について ・ひきこもり地域支援センター、ひきこもり支援について 講師：精神保健福祉センター職員 (※オンライン開催)	35名
9月4日	・面接技法研修①「初回面接の進め方」 講師：中京大学心理学部 教授 神谷 栄治 氏	26名
9月19日	・面接技法研修②「パーソナリティ障害等の理解と対応」 講師：中京大学心理学部 教授 神谷 栄治 氏	27名
10月29日	・原点に立ち返る！『連携のいろは』 講師：オプティムズプロジェクト 代表 上原 久氏	34名
1月28日	・グループワーク「精神保健福祉相談員と保健師での連携と地域課題の共有」	30名
3月12日	・精神疾患とその対応 講師：もりやま総合診療病院 医師 嶋本 正範 氏 (※オンライン開催)	118名

## (2) 精神科医療機関実習

### ア 趣旨

精神科医療機関における精神保健福祉業務についての理解を深め、あわせて精神科医療機関との連携を図るもの。

### イ 対象者

保健センター新任精神保健福祉相談員・精神保健福祉センター職員

### ウ 日時

次の表のとおり、精神科クリニックにおいて、1名につき原則各1日間ずつの実習を実施した。

日程	実習先	人数
8月22日	西山クリニック	1
9月26日		1
9月30日		1
10月11日		1

## (3) 精神保健福祉事例検討会

### ア 趣旨

精神保健福祉相談業務に従事するにあたり、必要な技術の習得・向上を図るため、実際の事例に基づき、その対応方法や方針、各機関・職種の役割分担等具体的な相談業務について検討するもの。併せて、ケース会議等でのファシリテーションスキルを獲得する機会とする。

### イ 参加者

保健センター精神保健福祉相談員・保健師等精神保健福祉関係職員、健康部健康増進課職員、精神保健福祉センター職員 他

### ウ 日時及び内容

実施日	担当	内 容	参加
5月14日	幹事区	「ひきこもり地域支援センター金山が取り組む相談事例の紹介」 名古屋市ひきこもり地域支援センター金山副センター長 阪上 由希子 氏	21名
7月9日	西ブロック	「自傷行為を繰り返す若年女性の支援と中村区精神保健福祉のフレームワーク」 中村保健センター 精神保健福祉相談員	20名
9月10日	南ブロック	「保健センターにおける自殺のリスクアセスメントと対応について」 天白保健センター 精神保健福祉相談員	20名

11月12日	東 ブロック	「両親の死後、治療中断となってしまったケースへの支援」 中保健センター 精神保健福祉相談員 「20年以上ひきこもり生活を送るケースに対する他職種連携によるアウトリーチ支援について～8050問題～」 千種保健センター精神保健福祉相談員	21名
1月14日	北 ブロック	「障害者虐待への対応～養護者との関わり方～」 東保健センター 精神保健福祉相談員	20名
3月11日	幹事区	「思春期女性ケースの退院後支援について」 守山保健センター精神保健福祉相談員	17名

## 思春期精神保健関係職員研修

### 1 趣旨

思春期の精神的な発達及び思春期に起こりがちな心の健康に関する諸問題を主な内容とし、保健センター職員を始めとする関係機関職員を対象に、専門職として資質の向上を図ることを目的とするもの。

### 2 実績

対 象	・各区保健センター ・本市関係機関（健康福祉局、子ども青少年局） ・教育機関（名古屋市内高等学校、中学校、特別支援学校） ・各区民生子ども課、支所区民福祉課 ・その他関係機関
実 施 日	3月5日
実施方法	オンライン開催
内 容	「自分を傷つけずにはられない! ～自傷・自殺の理解と援助～」 講師：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所薬物依存研究部部長 薬物依存症センター センター長 松本 俊彦 氏
参 加	94名 後日動画配信視聴数 117名

## こころの健康電話相談員研修

※ 別途、P37-38「精神保健福祉相談（こころの健康電話相談）」に記載

## 認知行動療法普及研修

### 1 趣旨

認知行動療法の普及と、うつ病患者等への治療の質の向上を図るため、市域の医療従事者等を対象とした研修を実施するもの。

## 2 実績

対 象	名古屋市内の医療機関等で精神科医療及び相談等に従事する医師、臨床心理士（資格見込可。大学院生以上）、精神保健福祉士、作業療法士、保健師、看護師、市内の小中高等学校・大学の教員やスクールカウンセラー等
実 施 日	2月6日
実施方法	オンライン開催
内 容	「不安症の理解と治療～支援者は何を理解しておくべきか～」 講師：宮崎大学医学部看護学科 教授 吉永 尚紀 氏 「事例から学ぶ社交不安症～周囲に望まれる関わり～」 講師：ごきそカウンセリングオフィス 代表 荒木 睦美 氏
参 加	199名 （参加機関数89）

### グリーンケア研修

---

#### 1 趣旨

令和6年度よりグリーンケアを必要とする対象者を把握する可能性の高い職員を対象に、グリーンケアに関する知識を深め、支援の質の向上を図るため、研修を実施するもの。

#### 2 実績

対 象	健康福祉局健康増進課精神保健担当、子ども青少年局（子育て支援課、子ども未来企画課、青少年家庭課、児童相談所）、教育委員会（学校保健課、新しい学校づくり推進課、子ども応援課）、市内小・中学校・特別支援学校・市立高校職員、各区保健センター職員、各区区役所職員（福祉課、民生子ども課、おくやみコーナー）
実 施 日	2月13日
実施方法	オンライン開催
内 容	「身近な人との死別を経験した子どものこころとグリーンケア」 講師：中京大学心理学部 教授 川島 大輔 氏
参 加	73名

### 依存症関連関係者研修

---

※ 別途、P63-64「依存症対策（依存症支援者研修）」に記載

### ひきこもり支援関係者研修

---

※ 別途、P74「ひきこもり地域支援センター（ひきこもり支援セミナー）」に記載

## 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修

### 1 趣旨

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けて、地域の精神保健医療福祉関係者の連携を推進し、精神障害者が地域でその人らしく生活を送れるよう、支援体制の構築を図るもの。

### 2 実績

#### (1) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修

対 象	名古屋市内の精神科医療機関職員および県内の精神科デイケア実施施設職員
実 施 日	1月23日
実施方法	オンライン開催
内 容	ア「名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」 説明：名古屋市精神保健福祉センター職員 イ「ピアサポーターと支援者からのメッセージ」 講師：名古屋市精神障害者ピアサポーター 名古屋市西区障害者基幹相談支援センター職員 ジョブサポートフォルテ（多機能型事業所）職員
参 加	27名（参加機関数17）

#### (2) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業において行われる精神障害者の地域移行関係職員に対する研修

対 象	指定特定・一般相談支援事業所、地域生活支援拠点事業所
実 施 日	7月12日
会 場	名古屋市中村文化小劇場
内 容	ア「名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」 説明：精神保健福祉センター 職員 イ「精神障害者の障害特性と支援技法についてⅠ 障害特性の理解及び具体的な支援方法（統合失調症・気分障害）」 講師：医療法人桜桂会 犬山病院 医療社会事業室 室長・精神保健福祉士 緒方 未輝子 氏 ウ「精神障害者の障害特性と支援技法についてⅡ 障害特性の理解及び具体的な支援方法（老年期・依存症・発達障害）」 講師：特定非営利活動法人さざさみ 生活支援センターさざなみ 精神保健福祉士 中住 正紀 氏 エ「当事者の想いを学ぶ～ピアサポーターのメッセージ～」 発表者：名古屋市内で活躍されている精神障害者ピアサポーター 2名 オ「社会資源と連携、家族支援の必要性について」 講師：社会福祉法人 半田市社会福祉協議会 半田市障がい者相談支援センター 副センター長 徳山 勝 氏
参 加	57名

## 1 趣旨

精神障害のある当事者が自らの経験を活かし、精神科病院に入院中の方への退院意欲の動機づけ支援や地域の家族会等において地域移行・地域定着支援の普及啓発活動を行う精神障害者ピアサポーター（以下「ピアサポーター」という。）及びピアサポーター支援者の養成を目的とするもの。

なお、この研修でいうピアサポーターは、精神障害者ピアサポート活用事業実施要綱に基づき行う、精神障害者ピアサポート活用事業における精神障害者ピアサポーターとする。

## 2 実績

### (1)精神障害者ピアサポーター養成研修

対 象	ア 当事者 （ア）市内在住または市内の障害福祉サービス事業所を利用しているピアサポート活動希望当事者 （イ）医療機関デイケアを利用しているピアサポート活動希望当事者 イ 支援者（本市ピアサポート活用事業において当事者を支援するもの） （ア）各区障害者基幹相談支援センター関係職員 （イ）障害福祉サービス事業所関係職員 （ウ）医療機関デイケアの関係職員
参加延べ人数	58名
<講義編>	
実施日	8月21日
実施方法	オンライン開催
内 容	ア 「みんなが元気で暮らせるために ～ピアサポーターと支援者に求められる役割について～」 講師：日本福祉大学 福祉経営学部 医療福祉マネジメント学科 教授・社会福祉学博士 青木 聖久 氏 イ 「ピアサポート活動への思いと協働について」 講師：名古屋市ピアサポーター活動当事者 中村区障害者基幹相談支援センター職員 ウ 受講者によるグループワーク 「現状と今後取り組みたい活動内容について」
参 加	32名（内訳：当事者23名、支援者9名）
<実践編>	
実施日	9月18日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	ア 「ピアサポーターの活動および活動を継続する上で必要な考え方について」 講師：名古屋市精神保健福祉センター職員 イ ピアサポーターとして活躍中の先輩の体験談 講師：名古屋市ピアサポーター活動当事者 2名 ウ 体験発表及びグループ交流会 「実際に体験談を発表してみよう」
参 加	26名（内訳：当事者17名、支援者9名）

## (2) 精神障害者ピアサポーター フォローアップ研修

目 的	ピアサポーターとしての活動継続へのモチベーションや質の向上を目的とする
対 象	ア 令和6年度名古屋市精神障害者ピアサポーター養成研修受講者 イ 名古屋市精神障害者ピアサポート活用事業登録者 (当研修を過去に受講された活用事業登録者は除く) ウ 受講希望当事者を支援されている方
実 施 日	11月20日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	ア 講義「ピアサポーターとして活動する意味～当事者として、 ピアサポーターとして、ピアサポーター支援者として～」 講師：作業所型地域活動支援事業くさのねっと 施設長 亀沖 昌睦 氏 イ 受講者によるグループワーク 「講義を受けて感じた・考えた自身のピアとはなにか？」
参 加	6名 (内訳：当事者3名、支援者3名)

## 災害時精神医療活動研修

### 1 趣旨

名古屋市域内外における大規模自然災害及び大規模事故等の発生時において、精神医療機関の支援、被災者の心のケア活動等を行うことができるよう関係職員を対象に研修を行うもの。

### 2 実績

対 象	保健センター、区役所（福祉課、民生子ども課、総務課）、その他精神保健福祉および災害対応の任務にあたる関係職員
実 施 日	12月13日
実 施 方 法	オンライン開催
内 容	講義 「災害時のメンタルヘルス」 「“ニナッている”、こころのケア（東日本大震災）」 「避難所における個別支援活動報告 ～心の不調を抱えた方やDPATとの関わりから学んだこと～（能登半島地震）」 講師：精神保健福祉センター 職員 健康部健康増進課 職員
参 加	35名 後日動画配信視聴数 69名

## 愛知県医療観察制度研修

### 1 趣旨

「医療観察法に基づく地域社会における処遇に関する愛知県運営要綱」第1章の第2の2の(1)により地域連携部会が設置されており、愛知県内の処遇に関する必要な情報交換、事例検討及びその他当面する諸課題の協議等を行うもの。

## 2 実績

対 象	保健センター職員
実 施 日	10月8日
会 場	名古屋市精神保健福祉センター（業務検討会内にて開催）
内 容	医療観察法制度説明 「ともに生きる地域を目指して～医療観察制度と地域とのかかわり～」 話題提供「対象者の希望と関係機関による支援」 意見交換・質疑応答
参 加	44名

### 実習生等の受入

#### 1 精神保健福祉援助実習

##### (1) 趣旨

精神保健福祉士法第7条第1号により、学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣の指定する精神障害者の保健及び福祉に関する科目を修めて卒業した者その他その者に準ずるものとして厚生労働省令で定める者については、精神保健福祉士試験受験資格を有すると規定され、平成10年厚生労働省告示第8号により定められた指定科目の中に「精神保健福祉援助実習」が含まれている。

この精神保健福祉士国家試験受験資格付与に係る、学校教育法に定める大学のカリキュラム「精神保健福祉援助実習」として学生を受け入れるもの。

##### (2) 実績

対象大学名 (受入人数)	同朋大学（2名） 東京福祉大学（1名）	
実 施 日	6月10日～6月26日	
実 習 施 設	名古屋市精神保健福祉センター（12日間） 東・守山保健センター（1日間） 瑞穂・北保健センター（1日間） 熱田保健センター（1日間）	
担 当 体 制	精神保健福祉相談員のうち精神保健福祉士3名で実習生を担当	
内 容	オリエンテーション	ア 精神保健福祉センター・保健センターの業務について イ 名古屋市の精神保健福祉施策について
	講 義	精神疾患、精神医療審査会、手帳等の判定、特定相談（思春期・自死遺族）、障害者総合支援法、ひきこもり関連、依存症対策事業、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業等
	実 習	各相談、事業に参加
	教 材 (供与)	「名古屋市精神保健福祉センター所報」、「資料集」、 「障害者福祉のしおり」、その他センター発行物等

## 2 公認心理師養成のための心理実習

### (1) 趣旨

公認心理師法第7条により、学校教育法に基づく大学において主務大臣指定の心理学等の科目を修め、かつ大学院において主務大臣指定の心理学等の科目を修めてその課程を修了した者等については公認心理師の受験資格を有すると規定されている。ここに規定されている心理学等の科目の中には、学外施設で実習を行う「心理実習」が含まれている。

この公認心理師国家試験受験資格付与に係る大学のカリキュラム「心理実習（臨床心理学学外実習）」として、学生を受け入れるもの。

### (2) 実績

実施日	対象大学名 (受入人数)	内 容
7月18日	中京大学 (12名)	講義： 「精神保健活動～医療者の視線で～」 「名古屋市における精神保健福祉業務について」

## 3 看護学修士課程実習

大学院看護学修士課程における学生2名の実習を受入れた。

## 4 医師臨床研修

### (1) 趣旨

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修の施行にあたっては、国から「臨床研修の到達目標」が示されており、臨床研修病院の指定の基準では、この到達目標を達成できる研修プログラムを有することが求められている。この到達目標の中では、経験目標の一つに特定の医療現場の経験が掲げられ、その中に精神保健・医療も盛り込まれている。精神保健福祉センターも、精神科病院等と並び必須項目として経験すべき精神保健・医療の現場とされている。

当センターも臨床指定研修病院の研修協力施設という位置づけで、研修の一部を担い、研修医を受け入れるもの。

### (2) 実績

協力した臨床指定研修病院	回数	参加
名古屋市立大学病院	11回	1回につき5名程度

## 5 医薬看連携地域参加型学習

### (1) 趣旨

名古屋市立大学では医学・薬学・看護学の医療系3学部の1年生を対象とし、地域の医療機関・施設・団体等の協力のもと、保健・医療・福祉に関する活動を行う実習を実施している。

当センターも協力施設として、実習生のグループを受け入れるもの。

### (2) 実績

令和6年度は1グループ9名（医学部3名・薬学部2名・看護学部4名）を受け入れた。アディクション・セッションにおいて名古屋市立大学生へ依存症

に関するアンケート調査を行った結果を公表することとなり、助言・指導を実施した。

実施日	来所学生数	来所教員数	内 容
6月26日	3名	1名	センターの見学、打合せ
11月2日	7名	1名	アディクション・セッションでの発表、他団体との交流

## 視察・見学

保健センター医師、子ども応援委員会、中学生、市議員などの視察・見学を受入れた。

## 当センター職員の研修

当センター職員の資質向上のため次の研修に職員を派遣した。

研修名	派遣延人数
ギャンブル等依存症研修（治療指導者/相談対応指導者養成研修） オンライン	2日×1名
依存症治療指導者・依存症相談対応指導者・地域生活支援指導者養成研修 （薬物）オンライン	2日×1名
依存症治療指導者・依存症相談対応指導者・地域生活支援指導者養成研修 （アルコール）オンライン	2日×1名
依存症研修 ゲーム依存相談対応指導者養成研修 オンライン	2日×1名
市町村セミナー「ひきこもり状態にある本人及び家族への支援実践について」 オンライン	0.5日×5名
ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修【初任者研修】 オンデマンド	2名
ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修【初任者研修】	1日×1名
ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修【現任者研修】 オンデマンド	2名
ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修【現任者研修】	1.5日×2名
KHJ全国大会in石川～KHJ全国ひきこもり家族会連合会・実践交流研修会～	1.5日×1名
こころの健康づくり対策事業 ひきこもり対策研修【基本編】オンデマンド	4名
こころの健康づくり対策事業 ひきこもり対策研修【実践編】	1日×1名
こころの健康づくり対策事業 こころの相談研修 オンライン	1日×1名
こころの健康づくり対策事業 PTSD対策専門研修 オンライン	1日×1名
宗教を背景とした心の健康に関する相談対応についての研修会	0.5日×1名

# 普及啓発

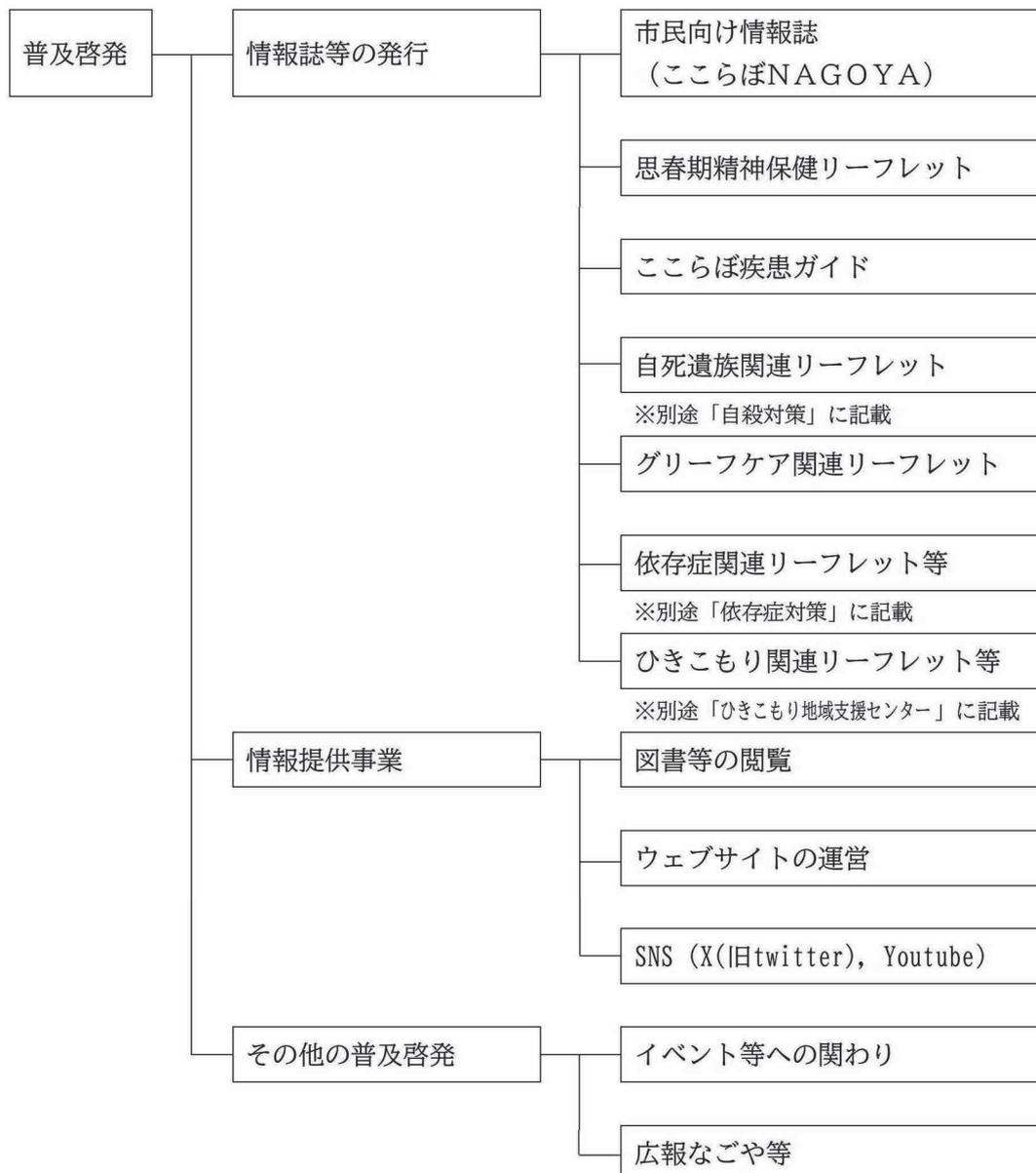
## 1 趣旨

市民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健センター等が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

## 2 概況

令和6年度は市民向け情報誌、思春期精神保健リーフレット、精神疾患に関するガイドブック、ひきこもり・依存症・グリーフケア関連のリーフレット等を発行した。また、ホームページの運営、X（旧：Twitter）、YouTubeでの情報提供を実施した。

## 3 体系



## 1 趣旨

当センターの行う事業や精神保健福祉関係機関等の活動、法律・施策に関する情報、精神医学的な知識や技術に関する情報などを掲載した情報誌を発行し、広く市民に情報提供することで、精神保健福祉施策の一層の推進を図るもの。

毎年、年2回発行している。

## 2 実績

名称	名古屋市精神保健福祉センター通信 こころぼNAGOYA	
対象	一般市民、関係機関	
号数	35号	36号
発行部数	2,600部	2,600部
発行月	9月	3月
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こころのサポーター」について</li> <li>・ひきこもり居場所のご案内</li> <li>・家族会のご案内</li> <li>・令和6年度名古屋市依存症講演会/令和6年度アディクション・セッション開催のご案内</li> <li>・令和5年度こころの健康フェスタなごやのご報告</li> <li>・リレーでつながろう！地域の支援機関（第25回）</li> <li>・掲載作品募集について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市ひきこもり地域支援センター 居場所活動のご紹介</li> <li>・名古屋ひきこもりメタバース「ゆるりリンク」のご紹介</li> <li>・令和6年度名古屋市依存症講演会/令和6年度アディクション・セッション開催のご報告</li> <li>・自殺対策強化月間のご案内</li> <li>・令和6年度こころの健康フェスタなごやのご案内</li> <li>・リレーでつながろう！地域の支援機関（第26回）</li> </ul>

## 思春期精神保健リーフレット

### 1 趣旨

思春期精神保健に関しては、背景となる精神疾患は多様である。当センターや関係機関における相談者の疾病理解の促進を図るとともに、思春期精神保健についての市民の理解をより深めていただくために、思春期精神保健に関するリーフレットを発行するもの。

### 2 実績

(1) リーフレット「ネット・ゲームとの上手な付き合い方」を当センター相談事業や研修などで配布、本市ウェブサイトへ掲載をし広く活用してもらえようにした。

(2) 思春期の相談先一覧に、思春期の特徴への理解や対応の参考になるものを記載したリーフレット「10代からのメンタルヘルス」を作成し、当センター相談事業での配布、関係機関等へも配布した。

## こころぼ疾患ガイド

---

### 1 趣旨

市民に疾病理解の促進を図ること等を目的に、様々な精神疾患について疾患ガイドを発行するもの。

### 2 実績

令和6年度は、①「統合失調症」②「双極性障害」③「発達障害」④「高次脳機能障害」⑤「うつ病」を、本市ウェブサイトに掲載した。

## 自死遺族関連リーフレット

---

※ 別途、P46-47「自殺対策（自死遺族に対する支援）」に記載

## グリーフケア関連リーフレット

---

### 1 趣旨

市民にグリーフケアに関する理解の促進を図ること等を目的に発行するもの。

### 2 実績

関係機関への配布、市ウェブサイトにも自助グループや支援団体の案内とともに掲載し広く周知した。

## 依存症関連リーフレット等

---

※ 別途、P64-66「依存症対策（依存症に関する普及啓発および情報発信）」に記載

## ひきこもり関連リーフレット等

---

※ 別途、P75-76「ひきこもり地域支援センター（ひきこもりに関する普及啓発および情報発信）」に記載

## 情報提供事業

---

### 1 図書・各種媒体の閲覧（貸出）

資料室に図書やビデオ・DVDを備え付け、市民への閲覧に供する他、関係職員に貸出を行った。

### 2 ウェブサイトの運営及びSNSを利用した情報提供

当センターでは、これまで名古屋市公式ウェブサイトにおいて主催事業等の情報提供をおこなってきた。

令和2年度からはX（旧：Twitter）、YouTubeの公式アカウントを新たに開設し、こころの健康に関する様々な情報提供を行っている。

し、こころの健康に関する様々な情報提供を行っている。

(1) 名古屋市公式ウェブサイト（平成13年2月開設）

精神保健福祉センターの ページ（URL）	<a href="http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/22-5-3-0-0-0-0-0-0-0.html">http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/22-5-3-0-0-0-0-0-0-0.html</a>
-------------------------	---

(2) X（旧：Twitter）（令和2年9月開設）

プロフィールページURL	<a href="https://twitter.com/cocolabo758">https://twitter.com/cocolabo758</a>
--------------	---

(3) YouTube（令和3年2月開設）

チャンネルURL	<a href="https://www.youtube.com/channel/UCk5EadWcd0fckjf6XHV31BA">https://www.youtube.com/channel/UCk5EadWcd0fckjf6XHV31BA</a>
----------	---

その他の普及啓発

---

1 イベント等への関わり

「スマイル！こころの絆創膏デー2024」

※ 別途、P44-45「自殺対策（自殺の予防）」に記載

2 広報なごや等

令和6年10月 広報なごや「ひきこもり地域支援センターについて」

令和7年 2月 ラジオ広報（2局）「依存症及び依存症相談窓口について」

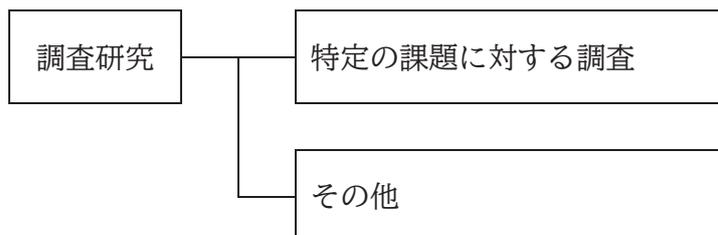
令和7年 2月 広報なごや「依存症及び依存症相談窓口について」

## 調査研究

### 1 趣旨

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、保健センター等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

### 2 体系



### 視察調査

件 名	派遣延人数
愛知県精神保健福祉センター薬物依存回復プログラム視察	0.5日×1名

### 外部発表

表 題	学会名等	発表形式	発表者
依存症相談窓口における行動嗜癖群の相談傾向と一般電話相談等との比較	第70回東海公衆衛生学会学術大会	口演	木村 安奈
思春期における精神保健相談の対象属性と相談内容の変化	令和6年度愛知県公衆衛生研究会	口演	木村 安奈

# 精神保健福祉相談

## 1 趣旨

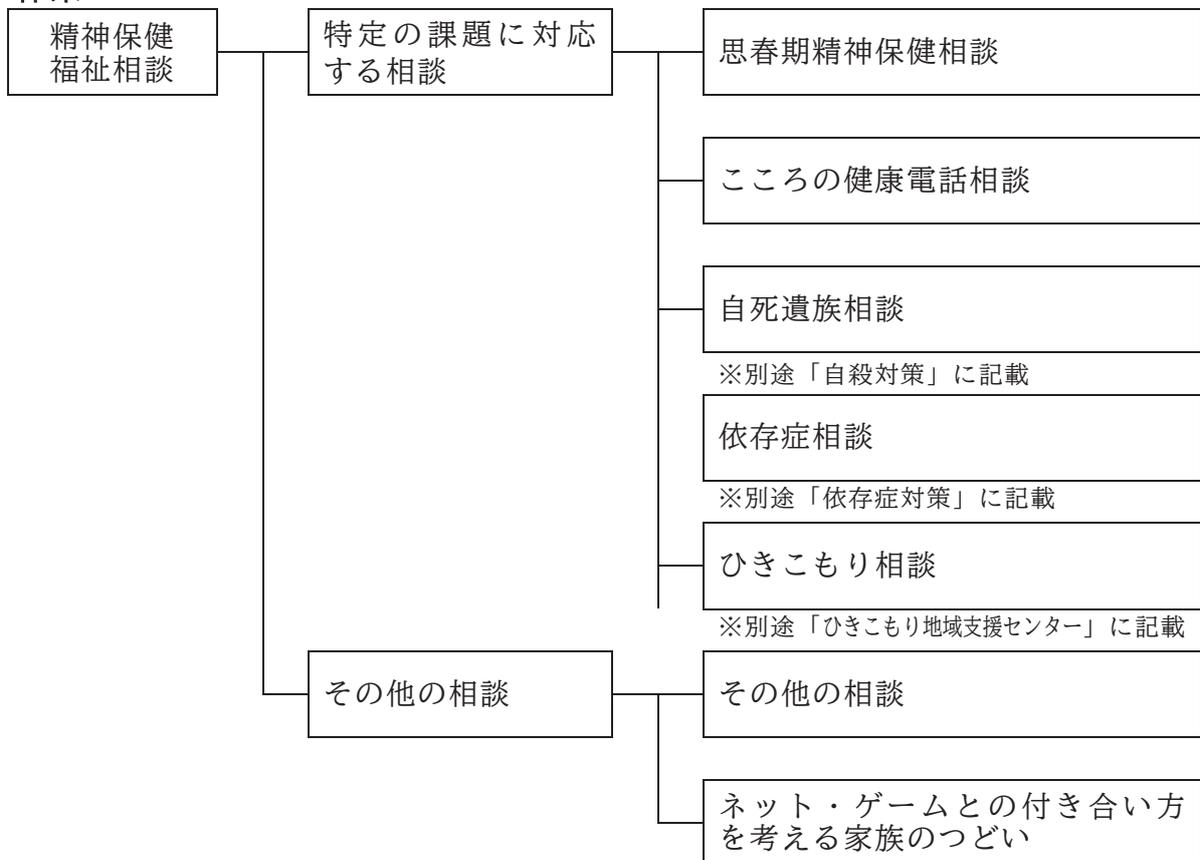
精神保健福祉センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。精神保健福祉センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求める。

## 2 概況

令和6年度は、特定の課題に対応する相談として以下の相談を引き続き実施した。

「精神保健福祉センターにおける特定相談指導事業」における思春期精神保健相談に関する相談指導等として「思春期精神保健相談」を実施した。その他、自殺対策として「自死遺族相談」を、「心の健康づくり推進事業」における心の健康づくり相談事業として「こころの健康電話相談」を実施した。また、当センターは、「依存症対策総合支援事業」における依存症相談拠点として「依存症相談」を、さらに、「ひきこもり支援推進事業」におけるひきこもり地域支援センター設置運営事業の一環として「ひきこもり相談」を実施した。

## 3 体系



## 相談件数統括

### 1 特定の課題に対する相談

#### (1) 各種相談

	来所 (特定相談日)		来所 (左記以外)		電話		出張		合計	
	実※	延※	実	延	実	延	実	延	実	延
思春期精神保健相談	54	55	—	—	—	—	—	—	54	55
自死遺族相談	16	18	—	—	—	—	—	—	16	18
依存症相談	79	85	61	62	713	1,163	—	—	853	1,310
ひきこもり相談	24	31	216	1,113	281	1,808	38	122	559	3,074
司法書士相談	8	9	—	—	—	—	—	—	8	9
合計	181	198	277	1,175	994	2,971	38	122	1,490	4,466

※実：実件数、延：延件数

#### (2) こころの健康電話相談

電話相談件数	1,982件
--------	--------

### 2 その他の相談

来所		電話		文書		合計	
実件数	延件数	実件数	延件数	実件数	延件数	実件数	延件数
22	27	1,561	1,979	39	62	1,622	2,068

## 思春期精神保健相談

### 1 趣旨

思春期に起こるさまざまな悩みや、こころの不調・こころの病気を抱えている本人やその家族等を対象に「思春期の精神保健相談」を実施するもの。平成30年度より精神科医師による相談枠を設けている。

### 2 実施状況

#### (1) 概要

名称	「思春期の精神保健相談」
実施日	① 第1・第2・第4火曜日 14時～16時 予約制 ② 第1木曜日 14時30分～16時30分 または 第2月曜日 10時～12時 予約制
担当	非常勤の特定相談員(医師、臨床心理士)、常勤の精神保健福祉相談員、保健師

## (2) 実績

### 相談件数（相談来所者の男女別内訳）

	実件数	延件数
男 性	8	8
女 性	46	47
計	54	55

### 相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

	～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23歳～	計
男 性	1	13	12	3	3	32
女 性	0	10	10	0	2	22
計	1	23	22	3	5	54

### 来所経路

自 発								紹 介	計
	インターネット	保健センター	児童相談所	学 校	病 院	広 報 なごや	その他		
47	22	3	6	3	4	1	8	7	54

### 初回相談時の来所者

家族のみ	相談対象者(本人のみ)	本人と家族	その他	計
44	1	9	0	54

### 初回相談時の処遇

病院・診療所を紹介	その他の機関を紹介	終結	その他	計
8	5	34	7	54

## こころの健康電話相談

### 1 趣旨

「心の健康づくり相談事業」の一環として、市民の心の健康に関する電話相談（匿名）を行うもの。

### 2 実施状況

#### (1) 概要

名 称	「こころの健康電話相談」
実 施 日	閉庁日を除く平日の12時45分～16時45分
担 当	非常勤の電話相談員

## (2) 実績

### 月別相談延件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	200	185	198	202	196	173	162	148	139	131	114	134	1,982

## 3 研修

こころの健康電話相談を担当している電話相談員等を対象とし、精神保健福祉施策及び精神障害（者）についての基本的な知識を習得するため研修を開催するもの。

実施日	内 容	参 加
第Ⅰ期 9月6日	① 講義「相談員のバーンアウト予防と対策」 講師：日本福祉大学教育・心理学部心理学科 土井 裕貴 氏 ②交流会 講師：精神保健福祉センター職員	10名
第Ⅱ期 3月12日	① 講義「精神疾患とその対応の基礎」 講師：もりやま総合心療病院 精神科医師 嶋本 正範 氏 ②交流会 講師：精神保健福祉センター職員	12名

### 自死遺族相談

※ 別途、P46-47「自殺対策（自死遺族に対する支援）」に記載

### 依存症相談

※ 別途、P60-63「依存症対策（依存症のご本人やご家族等を対象とした相談）」に記載

### ひきこもり相談

※ 別途、P70-71「ひきこもり地域支援センター（ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談）」に記載

### その他の相談

#### 1 一般予約相談

実人員	延人員												計
	高齢期	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	
61	0	1	4	6	51	0	0	1	0	0	0	0	63

## 2 来所相談

実人員	延人員												計
	高齢期	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	
22	1	12	0	0	0	3	3	2	2	0	0	3	26

## 3 一般電話相談

実人員	延人員												計
	高齢期	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	
1,561	55	547	18	23	25	4	131	394	86	7	3	686	1,979

## 4 文書相談

実人員	延人員												計
	高齢期	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	
39	0	18	1	1	7	0	6	24	4	0	0	1	62

※ メール相談含む

## ネット・ゲームとの付き合い方を考える家族のつどい

### 1 趣旨

子どものネット・ゲームの使用について悩んでいる親を対象に、ネット・ゲームやそれらを使用する子の心情への理解を深めつつ、子への関わり方を見直すことで、家族自身が問題を解決する意欲が高められることを目的に実施しているもの。

### 2 実施状況

- (1) 対象：子どものネット・ゲームの使用について悩んでいる名古屋市在住又は在勤の家族（当センター思春期精神保健相談利用者を対象とする）
- (2) 会場：名古屋市精神保健福祉センター
- (3) 実績

実施日	内 容	参 加
第1回 7月17日	ア 講話「ネット・ゲームのことを知ろう」 講師：精神保健福祉センター職員 イ 交流会	4名
第2回 9月11日	ア 講話「コミュニケーションを見直そう」 講師：臨床心理士 鈴木 昭江 氏 イ 交流会	7名

第3回 11月29日	講話「ネット・ゲームの向き合い方～思春期の特徴と理解、対応について～」 講師：愛知県尾張福祉相談センター 児童専門監 吉川 徹 氏	35名
第4回 1月15日	ア 講話「家族自身の生活を豊かにするために」 講師：臨床心理士 鈴木 昭江 氏 イ 交流会	11名
第5回 2月26日	講話「ネット・ゲームがやめられない？～家族にできること～」 講師：一般社団法人ネット・ゲーム依存家族の会 代表理事 黒田 沙希子 氏	16名

# 組織育成

## 1 趣旨

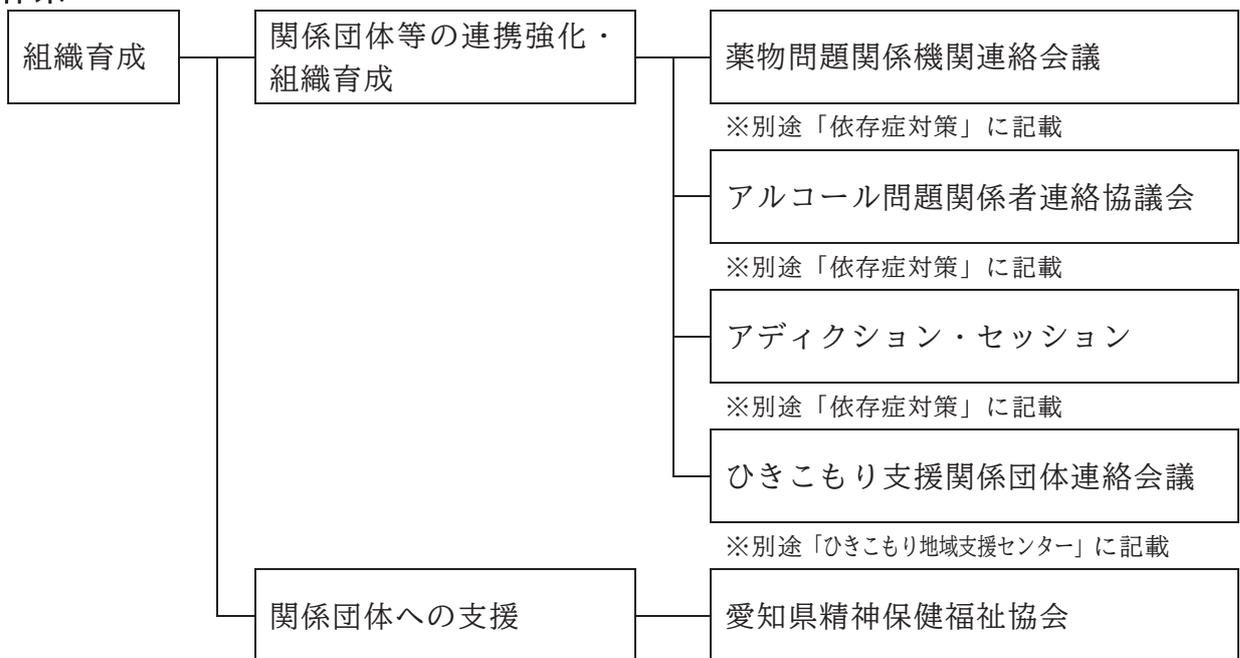
地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織活動が必要である。このため、精神保健福祉センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など組織の育成に努めるとともに、保健センター並びに地区単位での組織活動に協力する。

## 2 概況

令和6年度は、アルコール問題関係者連絡協議会の開催や、薬物問題関係機関連絡会議の愛知県との共催など、各種会議を開催した。また、愛知県精神保健福祉協会についても、引き続き所長が常務理事並びに広報研修部会長及び精神保健福祉基金審査委員長に委嘱され、精神保健福祉基金審査委員会については、当センターで委員会の事務を務めた。

その他、所長は名古屋連合断酒会の顧問にも就任している。

## 3 体系



### 薬物問題関係機関連絡会議

※ 別途、P58-59「依存症対策（関係機関との連携会議）」に記載

### アルコール問題関係者連絡協議会

※ 別途、P58-59「依存症対策（関係機関との連携会議）」に記載

※ 別途、P64-66「依存症対策（依存症に関する普及啓発および情報発信）」に記載

### ひきこもり支援関係団体連絡会議

※ 別途、P74「ひきこもり地域支援センター（ひきこもり支援関係機関との連絡調整等）」に記載

## 関係団体の支援

### 愛知県精神保健福祉協会

愛知県精神保健福祉協会は、愛知県における精神保健及び精神障害者福祉に関する活動の推進を努めるために、趣旨に賛同する会員によって構成され、専門部会や委員会を設置して各種事業を行っている。事務局は、愛知県精神保健福祉センターに置かれている。

当センターは、所長が常務理事並びに広報研修部会長及び精神保健福祉基金審査委員長に委嘱されている。さらに、精神保健福祉基金審査委員会については、当センター職員が委員に委嘱され、委員会の事務を担っている。

#### (1)事業内容（関係分）

##### ア 会議

(ア) 総会

(イ) 理事会

(ウ) 常務理事会

##### イ 専門部会・委員会

(ア) 広報研修部会

精神保健福祉に関する知識の普及・啓発を行うため『こころの健康』を年2回発行し、「こころの健康を考える講演会」、「シンポジウム」を実施している。

令和元年度以降は、シンポジウムが新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

#### (イ) 精神保健福祉基金審査委員会

愛知県精神保健福祉協会は、主として精神障害者を対象とするグループホーム、小規模作業所等を運営する者に対し運営又は整備にかかる資金を無利子で貸付ける「精神保健福祉基金」の事業を行っており、本委員会は、適正な貸し付けを行うための審査を行っている。

また、平成30年度より精神障害者の社会参加や自立の推進に取り組む、個人やグループ・団体の活動を支援するため、本基金を活用した「愛知県精神保健福祉協会会長奨励賞」の授与を行っている。

(2)実績

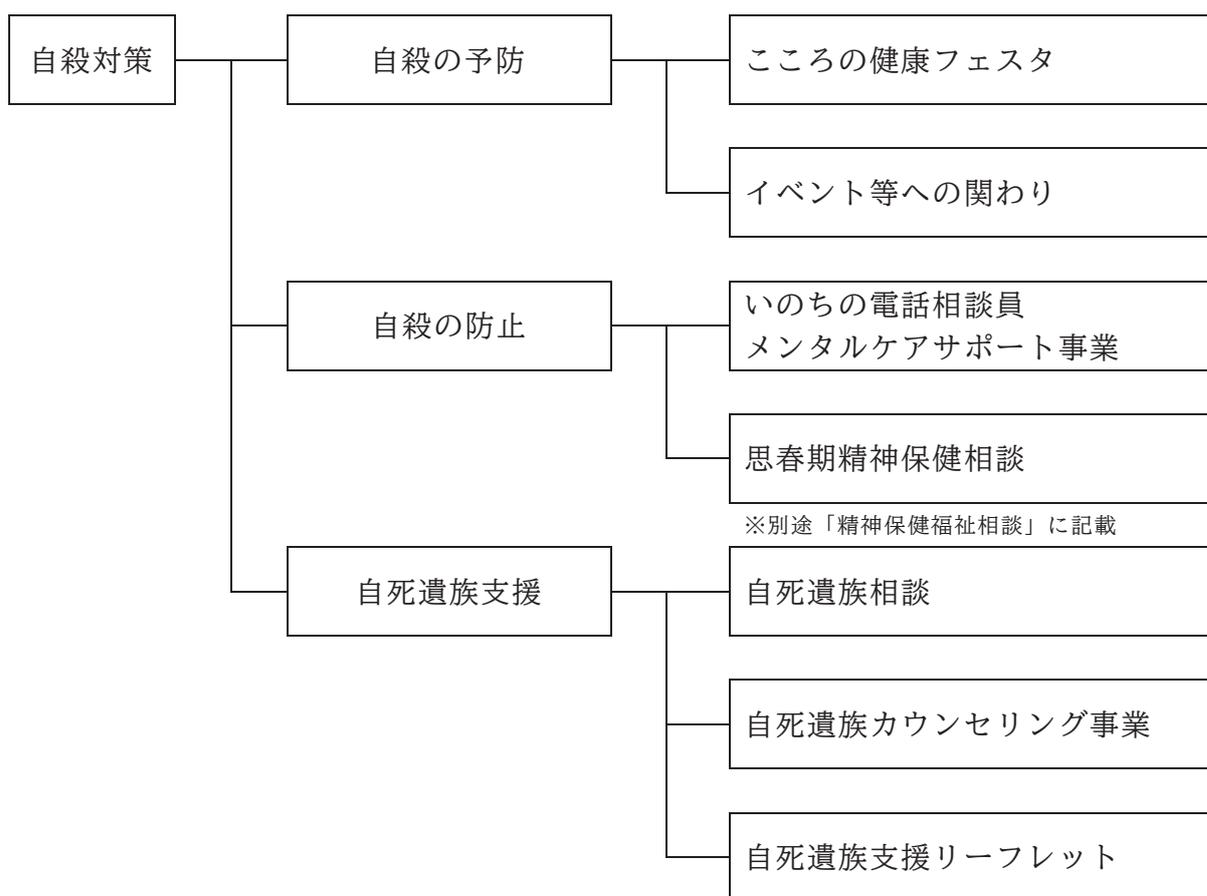
会議・事業名	参加回数
総会（オンライン開催）	1
理事会（オンライン開催）	1
常務理事会（オンライン開催）	1
広報研修部会（書面開催・オンライン開催）	2
愛知県精神保健福祉協会長表彰選考会（オンライン開催）	1
精神保健福祉基金審査委員会（オンライン開催）	1
愛知県精神保健福祉協会長奨励賞表彰選考会（オンライン開催）	1
こころの健康を考える講演会（オンライン開催）	1

# 自殺対策

## 1 趣旨

「自殺の予防」、「自殺の防止」、「自死遺族に対する支援」という3つの視点に立ち、自殺対策として各種事業を実施するもの。大切な人を自死で亡くされたご親族等の社会復帰や二次的な自殺の防止を目的とする「自死遺族相談」を始め、自殺対策に関する普及啓発および情報発信等を行う。

## 2 体系



## 自殺の予防

### 1 「こころの健康フェスタなごや」の開催

#### (1) 趣旨

市民に対しこころの健康づくりと、精神疾患への正しい理解の促進を目的にイベントを開催するもの。平成24年度から開催している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために令和元年度は中止、令和2・3年度はオンラインで開催した。令和4年度からは再び会場で開催している。

## (2) 実績

ア 日時：3月20日(木・祝) 10時～16時

イ 会場：オアシス21

ウ 来場者数：約1,100名

エ 内容

項目	内容
ステージ企画	<トークショー「凹んだこころのケア方法」> 若い世代の女性から支持を受けているインフルエンサーのひかりんちょ氏と、「ラクに生きるためのヒント」をテーマとした SNS 投稿により多数のフォロワーを持つ精神科医 Tomy 先生の対談 <チェアヨガ> ヨガの呼吸法を通し、心身の緊張を和らげる方法などを学ぶ講座 講師：熊澤 渚氏 <ライブステージ> 名古屋市いのちの支援啓発ソング「Dear my」歌唱パフォーマンス 出演者：SO.ON projectNAGOYA、78（ななはち）、サックス侍
フロア企画	<出店ブース> ・依存症等に関する相談案内・情報提供 ・ひきこもり地域支援センターによる相談案内・情報提供、メタバース体験コーナー ・福祉施設によるパンの販売 ・カラーセラピー ・足ツボマットを使った体験コーナー等

## 2 イベント等への関わり

「スマイル！こころの絆創膏デー2024」

子ども・若者向けイベント「スマイル！こころの絆創膏デー2024」（健康福祉局健康増進課主催）において、相談機関紹介動画作成に出演した。

## 自殺の防止

### 1 いのちの電話相談員メンタルケアサポート事業

#### (1) 趣旨

社会福祉法人愛知いのちの電話協会の電話相談員を対象として、臨床心理士による相談を実施するもの。

#### (2) 概要

名称	「いのちの電話相談員メンタルケアサポート事業」
実施日	毎月第2水曜日の14時～16時（8月はなし）
担当	非常勤の特定相談員（臨床心理士）

### (3) 実績

相談件数

実件数	延件数
21	21

## 2 思春期精神保健相談

※ 別途、P36-37「精神保健福祉相談（思春期精神保健相談）」に記載

### 自死遺族に対する支援

#### 1 自死遺族相談

##### (1) 概要

名 称	「自死遺族相談」
実 施 日	毎月第3火曜日の10時～12時、予約制
担 当	非常勤の特定相談員(臨床心理士)、常勤の精神保健福祉相談員、保健師

##### (2) 実績

相談件数

	実件数	延件数
男 性	4	5
女 性	12	13
計	16	18

##### 来所経路（実人数）

インターネット	広報なごや	パンフレット等	知人・家族の勧め	病院	保健センター	区役所	その他	計
7	1	5	0	0	1	1	1	16

##### 自死者との関係（実人数）

夫	妻	父	母	息子	娘	兄弟姉妹	その他	計
1	2	2	5	1	4	1	0	16

##### 初回相談時の処遇

病院・診療所を紹介	その他の機関を紹介	終結	自死遺族カウンセリング	継続	計
1	2	10	3	0	16

## 2 自死遺族カウンセリング事業

##### (1) 概要

自死遺族相談を通じて、継続的なカウンセリングが必要と認められた方について、名古屋大学心の発達支援研究実践センター心理発達相談室、名古屋市立大学医療心理センター臨床心理相談室、金城学院大学心理臨床相談室及び中京

大学臨床心理相談室において、臨床心理士によるカウンセリングを実施するもの。

(2) 実績

相談件数

	実件数	延件数
男性	0	0
女性	6	65
計	6	65

### 3 自死遺族関連リーフレット

(1) 趣旨

大切な人を自死で亡くされた方はさまざまな心情を抱えながら生活している。遺族の方の心の負担軽減及び支援、遺族の心情などについて理解を深めることを目的として、自死遺族に関連するリーフレットを発行するもの。

(2) 実績

「自殺総合対策大綱」の見直しを受け、令和5年度にリーフレット3種の内容を見直し、大幅に改訂。内容は、自死遺族の自助グループに原稿作成、監修を委託した。令和6年度は、対象者への配布、市ウェブサイトへ掲載をした。

# 精神医療審査会の事務

## 1 趣旨

精神医療審査会は、精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保するために、精神科病院に入院している精神障害者の処遇等について専門的かつ独立的な機関として審査を行うために設置されたものである。

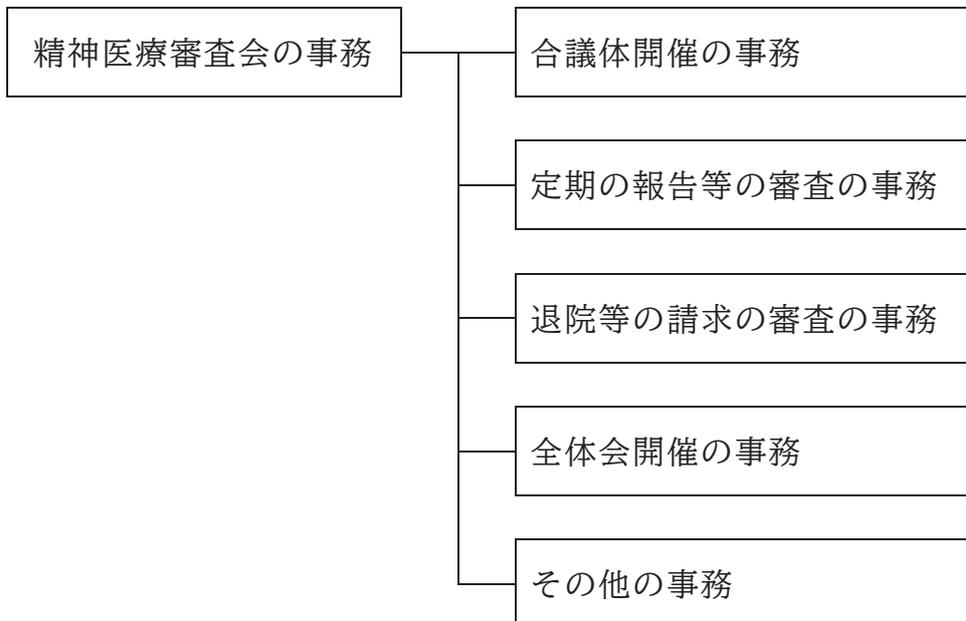
精神医療審査会の審査に関する事務の専門性に配慮し審査の客観性・独立性の一層の確保を図るため、開催事務及び審査の遂行上必要な調査その他精神医療審査会の審査に関する事務は、本市の精神保健福祉主管部局ではなく精神保健福祉センターにおいて行うものとする。

## 2 概況

平成11年の精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「精神保健福祉法」という。）の改正により、平成14年度から精神医療審査会の事務局としての業務は精神保健福祉センターで行うこととなっている。平成16年度から、合議体数を3から4に増やすとともに、平成22年度からは予備委員を設置し、審査の充実を図っている。また、平成25年度から、退院等の請求受付窓口が主管課より移管され、業務の迅速化をすすめている。

令和6年度からは、精神保健福祉法改正による審査件数の増加見込に対応するため、各合議体の開催数を年間8回から9回へ増やし、合議体数を4から5へ増設し、全合議体で合計45回開催している。

## 3 体系



## 合議体開催の事務

### 1 合議体の構成

5合議体が設置されている。各合議体の委員数は下表の通り。

区 分	委 員 区 分			計
	医療委員	法律家委員	有識者委員	
第 1 合 議 体	3名	1名	1名	5名
第 2 合 議 体	3名	1名	1名	5名
第 3 合 議 体	3名	1名	1名	5名
第 4 合 議 体	3名	1名	1名	5名
第 5 合 議 体	3名	1名	1名	5名
予 備 委 員	5名	4名	4名	13名
計	20名	9名	9名	38名

### 2 開催回数

1合議体9回開催で、合計45回開催された。

### 3 会議の公開

会議の開催（名称、日時、場所、議題、非公開の理由、照会先等）及び会議の概要（名称、日時、場所、議題、審査件数、出席者数、非公開の理由、照会先）を公表している。

## 定期の報告等の審査の事務

### 定期の報告等の審査結果

書類種別	審査件数	審査結果	
措置入院決定報告書 （再審査を要したものの）	79 (4)	現在の入院形態での入院適当	79
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	0
措置入院者の定期病状報告書 （再審査を要したものの）	14 (1)	現在の入院形態での入院適当	13
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	1
医療保護入院者の入院期間更新届 （再審査を要したものの）	809 (11)	現在の入院形態での入院適当	802
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	7
医療保護入院者の入院届 （再審査を要したものの）	2,507 (119)	現在の入院形態での入院適当	2,488
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	19

任意入院者の定期病状報告書 (再審査を要したもの)	23 (5)	現在の入院形態での入院適当	18
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	5
総件数 (再審査を要したもの)	3,432 (140)	現在の入院形態での入院適当	3,400
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0
		審査中	32
医療保護入院者の定期病状報告書 (再審査を要したもの)	143 (11)	現在の入院形態での入院適当	143
		他の入院形態への移行が適当	0
		報告を求める	0
		入院の継続は不要	0

## 退院等の請求の審査の事務

### 退院等の請求の審査結果

種別	入院形態	請求件数	審査件数	審査結果		取下件数	要件消失	継続件数
退院請求	措置	8	5	現在の入院形態での入院適当	3	1	1	1
				他の入院形態への移行が適当	2			
				入院の継続は不要	0			
	医療保護	73	51	現在の入院形態での入院適当	51	13	9	7
				他の入院形態への移行が適当	0			
				入院の継続は不要	0			
	任意	0	0	現在の入院形態での入院適当	0	0	0	0
				他の入院形態への移行が適当	0			
				入院の継続は不要	0			
	小計	81	56	現在の入院形態での入院適当	54	14	10	7
他の入院形態への移行が適当				2				
入院の継続は不要				0				
処遇改善請求	措置	3 (2)	0 (0)	処遇は適当	0	3 (1)	0 (0)	1 (1)
				処遇は不適当	0			
	医療保護	41 (35)	21 (20)	処遇は適当	21	11 (9)	7 (6)	6 (5)
				処遇は不適当	0			
	任意	2 (0)	2 (0)	処遇は適当	2	0 (0)	0 (0)	0 (0)
				処遇は不適当	0			
	小計	46 (37)	23 (20)	処遇は適当	23	14 (10)	7 (6)	7 (6)
				処遇は不適当	0			
合計		127 (37)	79 (20)			28 (10)	17 (6)	14 (6)

※「請求件数」には前年度からの継続件数6件を含まない。

※( )内は、「処遇改善請求」のうち、「退院請求」との併請求を再掲。

## 全体会開催の事務

---

- 1 開催日時 4月5日
- 2 開催場所 精神保健福祉センター研修室
- 3 出席者数 審査会委員22名
- 4 その他 傍聴者なし

## その他の事務

---

4月19日に市内精神科病院の事務担当者を対象とした、精神保健福祉関係事務連絡会議を開催した。出席者数は15病院23名。

# 精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）の判定

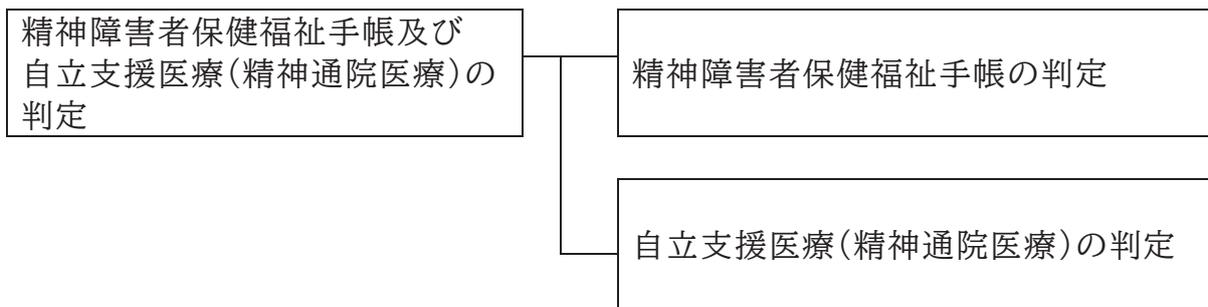
## 1 趣旨

精神保健福祉センターは、精神保健福祉法第45条第1項の規定による精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定業務及び障害者総合支援法第52条第1項に規定する自立支援医療（精神通院医療）の判定業務を行うものとする。

## 2 概況

平成11年の精神保健福祉法の改正にともない、平成14年度から精神障害者通院医療費公費負担及び精神障害者保健福祉手帳に関する判定事務を精神保健福祉センターで行うこととなった。平成18年度からは、障害者総合支援法（制度開始時は障害者自立支援法）に基づく自立支援医療（精神通院医療）の判定業務を行っている。精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）申請のうち、診断書添付の申請については判定委員により、また年金証書の写し添付の申請については各年金事務所に照会の上、判定を行った。

## 3 体系



## 精神障害者保健福祉手帳

### 1 令和6年度申請状況

	診断書	年金証書	合計
当該年度における申請者数 ( )内は更新者数再掲	15,249 (10,659)	6,602 (6,232)	21,851 (16,891)

### 2 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

3月末現在

年度 区分	R2	R3	R4	R5	R6
1級	1,679	1,793	1,895	1,970	2,117
2級	18,167	19,851	21,696	23,395	25,466
3級	9,274	9,723	10,322	11,292	12,663
計	29,120	31,367	33,913	36,657	40,246

### 3 承認件数

区分		千種	東	北	(楠)	西	(山田)	中村	中
新規	1級	10	5	8	5	8	5	8	6
	2級	127	74	98	32	64	56	155	86
	3級	138	84	152	44	102	64	188	130
	小計	275	163	258	81	174	125	351	222
等級変更	1級	2	1	0	0	0	0	2	1
	2級	25	13	18	7	11	9	26	12
	3級	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	27	14	18	7	11	9	28	13
更新	1級	85	21	46	21	31	25	38	36
	2級	810	317	648	245	389	305	655	393
	3級	321	146	265	72	197	134	280	195
	小計	1,216	484	959	338	617	464	973	624
市外からの転入	1級	2	3	6	0	4	1	8	2
	2級	49	17	31	9	28	20	49	43
	3級	25	16	21	10	13	9	37	26
	小計	76	36	58	19	45	30	94	71
計	1級	99	30	60	26	43	31	56	45
	2級	1,011	421	795	293	492	390	885	534
	3級	484	246	438	126	312	207	505	351
	合計	1,594	697	1,293	445	847	628	1,446	930

区分		昭和	瑞穂	熱田	中川	(富田)	港	(南陽)	南
新規	1級	4	2	5	15	6	6	2	11
	2級	88	77	50	118	73	106	34	109
	3級	107	92	94	131	79	133	31	134
	小計	199	171	149	264	158	245	67	254
等級変更	1級	0	1	1	2	0	4	1	2
	2級	16	13	12	19	14	25	9	20
	3級	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	16	14	13	21	14	29	10	22
更新	1級	29	52	28	66	37	50	17	82
	2級	419	458	322	687	489	627	141	730
	3級	191	202	139	279	151	280	42	284
	小計	639	712	489	1,032	677	957	200	1,096
市外からの転入	1級	1	5	2	6	2	3	2	2
	2級	25	15	12	38	28	18	11	36
	3級	16	10	5	29	8	13	2	13
	小計	42	30	19	73	38	34	15	51
計	1級	34	60	36	89	45	63	22	97
	2級	548	563	396	862	604	776	195	895
	3級	314	304	238	439	238	426	75	431
	合計	896	927	670	1,390	887	1,265	292	1,423

区分	守山	(志段味)	緑	(徳重)	名東	天白	合計	
新規	1級	17	5	8	8	15	13	172
	2級	120	23	120	74	140	160	1,984
	3級	135	17	146	100	168	167	2,436
	小計	272	45	274	182	323	340	4,592
等級変更	1級	0	2	0	3	1	1	24
	2級	12	3	12	17	23	28	344
	3級	0	0	0	0	0	0	0
	小計	12	5	12	20	24	29	368
更新	1級	118	45	38	33	60	62	1,020
	2級	783	171	623	441	822	805	11,280
	3級	233	41	270	189	339	341	4,591
	小計	1,134	257	931	663	1,221	1,208	16,891
市外からの転入	1級	5	5	2	2	9	9	81
	2級	29	13	32	19	44	44	610
	3級	13	3	14	14	28	21	346
	小計	47	21	48	35	81	74	1,037
計	1級	140	57	48	46	85	85	1,297
	2級	944	210	787	551	1,029	1,037	14,218
	3級	381	61	430	303	535	529	7,373
	合計	1,465	328	1,265	900	1,649	1,651	22,888

※承認件数は、令和6年度中に承認のあったものの新規、等級変更、更新、転入の承認件数

※（ ）内は、支所名

## 自立支援医療（精神通院医療）

障害者総合支援法の施行により、それまでの精神保健福祉法第 32 条の通院医療費公費負担制度は、平成 18 年 4 月 1 日より、障害者総合支援法（制度開始時は障害者自立支援法）第 52 条に基づく自立支援医療（精神通院医療）に移行した。

在宅精神障害者が必要な医療を受けやすくするため、通院医療を受ける場合の一部負担金を公費で助成するという制度の目的に変更はないが、1) 原則として医療費の 1 割負担、2) 所得区分による月額負担上限額の設定、3) 利用する医療機関は所在地の都道府県または指定都市の指定医療機関であることが必要、などが変更となった。

### 1 区別申請者の状況

区 分		千種	東	北	(楠)	西	(山田)	中村	中
新 規	申請者数	778	414	704	238	518	307	908	675
	承認者数	778	414	702	238	518	307	903	674
	不承認者数	0	0	2	0	0	0	5	1
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
市 外 転 入	申請者数	103	47	74	23	62	40	127	96
	承認者数	103	47	74	23	62	40	127	96
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再認定	申請者数	3,258	1,519	3,100	972	2,166	1,441	3,479	2,010
	承認者数	3,258	1,519	3,098	972	2,165	1,441	3,478	2,010
	不承認者数	0	0	2	0	1	0	1	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請	申請者数	674	290	596	206	665	325	1,236	391
	承認者数	674	290	596	206	665	325	1,236	391
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変更届	申請者数	753	380	702	195	492	354	941	557
	承認者数	753	380	702	195	492	354	941	557
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再交付	申請者数	129	41	108	34	90	46	170	102
	承認者数	129	41	108	34	90	46	170	102
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請 進 達 有	申請者数	60	38	53	9	67	16	120	52
	承認者数	59	37	53	8	66	16	120	51
	不承認者数	1	1	0	1	1	0	0	1
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分		昭和	瑞穂	熱田	中川	(富田)	港	(南陽)	南
新 規	申請者数	492	526	354	721	420	563	171	624
	承認者数	491	526	354	719	419	561	171	622
	不承認者数	1	0	0	2	1	2	0	2
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
市 外 転 入	申請者数	64	51	39	77	48	47	16	65
	承認者数	64	51	39	77	48	47	16	65
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再認定	申請者数	2,156	2,290	1,442	3,200	1,880	2,583	641	3,145
	承認者数	2,155	2,289	1,441	3,199	1,880	2,582	641	3,143
	不承認者数	1	1	1	1	0	1	0	2
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請	申請者数	458	450	358	746	562	818	218	488
	承認者数	458	450	358	746	562	818	218	488
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変更届	申請者数	539	593	366	581	401	568	154	569
	承認者数	539	593	366	581	401	568	154	569
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
再交付	申請者数	86	88	56	105	84	108	19	80
	承認者数	86	88	56	105	84	108	19	80
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請 進 達 有	申請者数	42	47	45	81	57	59	17	80
	承認者数	42	47	45	81	56	58	17	79
	不承認者数	0	0	0	0	1	1	0	1
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分		守山	(志段味)	緑	(徳重)	名東	天白	合計
新 規	申請者数	599	152	565	476	686	784	11,675
	承認者数	599	151	565	476	686	783	11,657
	不承認者数	0	1	0	0	0	1	18
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
市 外 転 入	申請者数	53	20	64	60	104	89	1,369
	承認者数	53	20	64	60	104	89	1,369
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
再認定	申請者数	2,720	606	2,782	2,290	3,323	3,560	50,563
	承認者数	2,717	606	2,782	2,290	3,322	3,553	50,541
	不承認者数	3	0	0	0	1	7	22
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請	申請者数	495	120	550	469	952	858	11,925
	承認者数	495	120	550	469	952	858	11,925
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
変更届	申請者数	674	133	637	357	546	948	11,440
	承認者数	674	133	637	357	546	948	11,440
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
再交付	申請者数	97	13	70	61	131	98	1,816
	承認者数	97	13	70	61	131	98	1,816
	不承認者数	0	0	0	0	0	0	0
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0
変 更 申 請 進 達 有	申請者数	55	12	39	35	84	108	1,176
	承認者数	55	12	39	34	84	106	1,165
	不承認者数	0	0	0	1	0	2	11
	保留その他	0	0	0	0	0	0	0

※ ( ) 内は、支所名

## 2 自立支援医療（精神通院医療）受給者証所持者数の推移

3月末現在

年 度	R2	R3	R4	R5	R6
所持者数	48,320	48,485	51,345	54,221	58,510

## 依存症対策

### 1 趣旨

当センターは、平成30年7月より依存症相談拠点として、依存症相談窓口を開設し、依存症に関連した各種事業を実施している。

主な事業内容としては、依存症専用電話を設置し電話相談を行うと共に、従来からある特定相談を充実させ、依存症のご本人やご家族等の面接相談を行っている。

また、関係機関との連携強化を目的とした会議や関係機関の職員等を対象とした研修を実施し、パンフレットの発行や講演会の開催等依存症に関する普及啓発を行うなど、依存症のご本人やご家族への支援の充実を図っている。

### 2 主な事業内容

- (1) 関係機関との連携会議
  - ・アルコール問題関係者連絡協議会の開催
  - ・薬物問題関係機関連絡会議の開催
- (2) 依存症のご本人やご家族等を対象とした相談
  - ・来所相談（特定相談・一般相談）
  - ・電話相談
- (3) 依存症支援者研修
  - ・依存症基礎講座の開催
  - ・ギャンブル問題関係者研修の開催
- (4) 依存症に関する普及啓発および情報発信
  - ・各種リーフレット、広報用カード等の配布
  - ・名古屋市嗜癖問題支援機関リストの作成・配布
  - ・アディクション・セッションの開催
  - ・依存症講演会の開催
- (5) 本人支援
  - ・NAT-G（なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム）の実施
- (6) 家族支援
  - ・依存症家族教室（アルコール・薬物・ギャンブル問題）の開催
  - ・依存症家族のつどいの開催

### 関係機関との連携会議

---

#### 1 アルコール問題関係者連絡協議会

##### (1) 趣旨

依存症患者等（アルコール問題）に対する包括的な支援を実施するため、行政や医療、福祉、司法を含めた関係機関が密接な連携と、地域におけるアルコール依存症に関する情報や課題の共有、研修計画の調整等を図るため、協議の場を設置する。

## (2) 実績

構 成 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋市内在存症専門医療機関・依存症治療拠点機関の関係職員</li> <li>市内アルコール問題を取り扱う自助団体当事者</li> <li>市内保健福祉センター（代表区）精神保健福祉相談員</li> <li>名古屋市健康福祉局健康増進課職員</li> <li>名古屋市精神保健福祉センター職員</li> <li>その他アルコール問題を取り扱う関係機関</li> </ul>	
実 施 日 実 施 方 法 参 加	第1回目 (会場開催)	8月29日 会場：名古屋市精神保健福祉センター 19名（8機関）
	第2回目 (会場開催)	1月30日 会場：名古屋市精神保健福祉センター 41名（28機関）
	第3回目 (会場開催)	1月30日 会場：名古屋市精神保健福祉センター 17名（8機関）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業保健分野との連携や支援体制の構築・推進方法について</li> <li>本会議を実施していくための意見交換</li> <li>事例報告会・グループワーク</li> </ul>	

## 2 薬物問題関係機関連絡会議

### (1) 趣旨

薬物乱用が社会問題化している昨今、薬物問題に関わる関係機関の連絡会議を開催し、薬物問題への取り組みについて相互の理解を深めるとともに連携上の課題について検討し、ネットワークづくりをめざすもの。

### (2) 実績

対 象	支援団体、更生保護施設、精神科医療機関、県内保健所・保健センター、名古屋地方検察庁刑事政策推進室、中部地方更生保護委員会、名古屋保護観察所、名古屋矯正管区、名古屋刑務所、名古屋少年鑑別所、愛知県警察本部少年課、東海北陸厚生局麻薬取締部、愛知県健康医務部医務課こころの健康推進室、愛知県生活衛生部医薬安全課、名古屋市健康福祉局健康増進課、名古屋市健康福祉局環境薬務課、名古屋市スポーツ市民局男女平等参画課等
実 施 主 体	愛知県精神保健福祉センター及び名古屋市精神保健福祉センターの共催
会 場	名古屋市総合社会福祉会館
実 施 日	2月7日
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関からの情報提供・情報交換</li> <li>講演 「市販薬・処方薬依存の現状と支援のあり方」 講師：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長／同薬物依存症センター センター長 松本 俊彦 氏</li> <li>話題提供：当事者からのメッセージ</li> </ul>
参 加	77名（53機関）

## 依存症のご本人やご家族などを対象とした相談

### 1 趣旨

アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する相談事業を実施。平成29年度まで「薬物リハビリテーション相談」として実施していたが、平成30年7月より依存症相談拠点として「依存症に関する専門相談窓口」を設置。また平成30年6月より、自助グループ当事者によるピア相談も実施。併せて、依存症の特性に応じて、令和元年度より司法書士による債務相談を開始した。

### 2 相談実施状況

#### (1) 特定相談・ピア相談

##### ア 概要

実施日	毎月の日程 ※ 各日予約制 <依存症に関するご相談> <ul style="list-style-type: none"><li>奇数月 第2月曜日 14時～</li><li>毎月 第4火曜日 14時～</li><li>偶数月 第1水曜日 14時～</li><li>偶数月 第2水曜日 14時～</li><li>毎月 第3水曜日 14時～</li><li>毎月 第1金曜日 14時30分～</li><li>毎月 第3金曜日 10時～</li></ul> (その他、職員による面接相談も随時実施) <債務整理相談> <ul style="list-style-type: none"><li>毎月 第2金曜日 14時～</li></ul>
担当	非常勤の特定相談員（医師、精神保健福祉士、ピア相談員、司法書士）

##### イ 相談実績

###### (ア) 相談件数（相談来所者の男女別内訳）

	実件数	延件数
男性	34	35
女性	45	50
計	79	85

## (イ) 相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

	～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～60歳	61歳～	不明	計
男性	1	15	19	13	5	4	0	57
女性	0	2	3	8	7	2	0	22
計	1	17	22	21	12	6	0	79

## (ウ) 来所経路（初回来所時）

自 発	紹 介				計
	保健センター	インターネット	その他	不 明	
78	4	52	21	1	79

## (エ) 初回相談時の来所者（初回来所時）

家族のみ	相談対象者(本人のみ)	本人と家族	その他	計
47	16	14	2	79

## (オ) 依存対象別相談件数（件数には重複使用を含む）

アルコール	覚せい剤	大 麻 (マリファナ)	危険ドラッグ	処方・ 市販薬	ギャンブル	買い物
19	3	2	1	2	36	8
性依存	摂食障害	タバコ	インターネット	ゲーム	その他	
0	0	0	0	3	7	

## (カ) 初回相談時の処遇（件数には重複使用を含む）

病院・診療所を紹介	自助グループを紹介	センターのみで 終結・助言	その他
15	47	58	6

## (キ) ピア相談内訳

区分	断酒会	ダルク	ギャマノン	計
開催回数	11	12	6	29
相談件数	10	14	7	31

(2) 一般来所相談

ア 概要

当センター常勤職員の保健師、精神保健福祉相談員、依存症相談員が実施するもの。

イ 相談実績

(ア) 相談件数（相談来所者の男女別内訳）

	実件数	延件数
男性	46	47
女性	15	15
計	61	62

(イ) 相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

	～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～60歳	61歳～	不明	計
男性	0	5	18	12	5	6	0	46
女性	0	0	4	3	4	4	0	15
計	0	5	22	15	9	10	0	61

(ウ) 来所経路（初回来所時）

自 発	紹 介				計			
	保健センター	インターネット	その他	不 明		保健センター	その他	
59	2	44	13	0	2	0	2	61

(エ) 初回相談時の来所者（初回来所時）

家族のみ	相談対象者(本人のみ)	本人と家族	その他	計
12	44	3	2	61

(オ) 依存対象別相談件数（件数には重複使用を含む）

アルコール	覚せい剤	大 麻 (マリファナ)	危険ドラッグ	処方・ 市販薬	ギャンブル	買い物
4	4	2	0	0	66	2
性依存	摂食障害	タバコ	インターネット	ゲーム	その他	
0	1	0	0	2	0	

(カ) 初回相談時の処遇（件数には重複使用を含む）

病院・診療所を紹介	自助グループを紹介	センターのみで 終結・助言	その他
12	22	58	19

(3) 依存症相談窓口専用電話

実人員	延人員												
	高齢期	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	計
713	3	34	213	139	353	32	13	173	7	46	1	149	1,163

(4) 依存症相談拠点相談件数

区分	アルコール	薬物	ギャンブル	その他	計
相談件数	240	151	449	479	1,319

※特定相談、一般相談、電話相談、文書相談等の合計件数を記載

依存症支援者研修

1 依存症基礎講座

(1) 趣旨

依存症問題に関わる保健センター職員を始めとする関係機関職員を対象に、依存症の知識を深め、相談技術の向上、関係機関との連携による支援の視点を学ぶことを目的として研修を開催するもの。

(2) 実績

対 象	依存症問題に関わる下記の市域関係機関職員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各区保健センター</li> <li>・ 各区福祉課、民生子ども課保護担当、支所区民福祉課</li> <li>・ 障害者基幹相談支援センター</li> <li>・ いきいき支援センター</li> <li>・ 各区消防署</li> </ul>
参加延べ人数	60名
<第1回>	
実施日	12月6日
会場	名古屋市精神保健福祉センター
内 容	ア 「依存症病理と引き起こす問題への理解～ 問題への気づきに役立つ知識～」 講師：刈谷病院 依存症診療医長 古川 優樹 氏 イ 「自助グループ活動からの関わり～ KA（クレプトマニア アノニマス）グループからのメッセージ～」 講師：名古屋ダルク職員
参加	30名
<第2回>	
実施日	12月16日
会場	名古屋市精神保健福祉センター

内 容	ア 「アディクションの捉え方と連携の必要性～ソーシャルワークの視点から～」 講師：日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 准教授 田中 和彦 氏 イ 「アルコール依存症の当事者活動からの関わり」 講師：名古屋マック 施設長 深津 誠司 氏
参 加	30名

## 2 ギャンブル問題関係者研修

### (1) 趣旨

ギャンブル問題に関わる職員を対象に、ギャンブル問題について正しく理解し、適切な対応方法を身につけることを目的に研修を実施するもの。

### (2) 実績

対 象	債務の相談機関、精神科医療機関、公営ギャンブル組合及び愛知県遊技協同組合等の団体、健康福祉局健康増進課、障害者基幹相談支援センター保健センター、民生子ども課、支所区民福祉課
実 施 日	2月12日
実施方法	オンライン
内 容	講義1-1：本人が望む支援とは ～本人が知ってほしいこと～ GA (GAMBLERS ANONYMOUS) 講義1-2：家族が望む支援とは ～家族が知ってほしいこと～ GAM-ANON (ギヤマノン) 講義2：ギャンブル障害への理解と治療や支援について 精神科医 山谷 千尋 氏 講義3：ギャンブル依存症回復プログラム「NAT-Gについて」 精神保健福祉センター職員
参 加	40名

## 依存症に関する普及啓発および情報発信

### 1 依存症相談窓口の普及

#### (1) 趣旨

依存症のご本人やご家族、支援関係者等を対象に、依存症相談窓口の情報を提供するチラシ（「依存症相談窓口チラシ」）を発行するもの。

#### (2) 実績

ご本人ならびにご家族、また各種研修の開催時や会議の場において、関係機関職員向けに配布。併せて、広く市民を対象とし参加者が多い「依存症講演会」及び「アディクション・セッション」においても配布を行った。

## 2 依存症リーフレット

### (1) 趣旨

依存症の問題に悩んでいるご本人やご家族等を対象として、治療や対応のポイント、自助グループや相談窓口の情報等を掲載したリーフレットを発行するもの。

- ・「依存症って何」「NAT-Gのご案内」「依存症家族のつどい」「依存症家族教室」「依存症相談窓口」

### (2) 実績

ご本人ならびにご家族、また各種研修の開催時や会議の場において、関係機関職員向けに配布。併せて、広く市民を対象とし参加者が多い「アクション・セッション」「依存症講演会」においても配布を行った。

## 3 名古屋市嗜癮問題支援機関リスト

### (1) 趣旨

嗜癮問題に関する支援を行っている名古屋市内外の機関・団体の情報を集約しご本人やご家族などに公開し提供することで、支援を必要としている方が適切な支援につながることを目的として作成するもの。

### (2) 実績

令和6年度は、関係機関への送付、ホームページでの掲載及び薬物問題関係機関連絡会議、依存症相談の来所者等への配布を行った。

## 4 アクション・セッション

### (1) 趣旨

アルコールや薬物、ギャンブル等いわゆる嗜癮問題からの回復を目指す自助グループや支援機関から「現在に至るまでの体験談」や「アクションに対する自身の想い」、また「各機関における依存症に関する取り組み」などに関する発表を行うことで、市民に理解を深めていただく機会とする。また、参加機関同士の横のつながりや、今後の支援ネットワーク体制構築の一助とする。

### (2) 実績

観覧対象	自助グループ等、医療機関、福祉機関、区役所・保健センターなどの機関において嗜癮問題に関わる地域関係職員、ならびに一般市民
実施日	11月2日
会場	中区役所ホール
内容	ア 自助グループ及び支援機関からのメッセージ イ ホワイエでの資料配布・活動内容紹介
申込団体	ステージ発表15団体、ホワイエでの資料配布16団体
参加	180名

### (3) 打合せ会の実施

令和6年度のアクション・セッションより、事前の準備・企画や当日の運営について参加団体にも携わっていただく形式をとり、以下のとおり打合せ会を行った。

開催日	団体数	打合せ内容
5月23日	8	テーマとチラシ作成についての検討
6月27日	6	11月2日までの作業の確認、プログラムの検討
9月12日	5	11月1日午後の作業と当日の役割分担、相談ブースの活用方法
11月7日	2	アディクション・セッションの振り返り

## 5 依存症講演会

### (1) 趣旨

依存症相談拠点として、依存症についての普及啓発をすすめることを目的として実施するもの。

令和6年度は会場開催と、講演者である鈴木明子氏から別途いただいたメッセージとともに「ここらぼのYouTubeチャンネル」にて配信した。

### (2) 実績

対 象	名古屋市内在住・在勤（学）の依存症に関心のある方
実 施 日	会場開催：11月15日 YouTube配信期間：12月11日～令和6年度末時点で公開中
内 容	テーマ：「ひとつひとつ、少しずつ。～摂食障害を乗り越えて～」 講演者：鈴木 明子 氏（プロフィギュアスケーター）
参 加	165名
YouTube再生回数	368回（令和6年度末時点）

## なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム（NAT-G）

### 1 趣旨

自身のギャンブル等（パチンコやパチスロ、競馬、競艇、競輪、オートレースその他の射幸行為）の楽しみ方を改めたいと希望する方が、ギャンブルに頼らない生活の実現を目指し、自分らしい生き方を取り戻すよう援助するもの。

### 2 概要

#### (1) 対象者

- ア 自身のギャンブル等の楽しみ方を改めたい方
- イ 事前面接の結果、本プログラムを受けることが適当と認められる方

#### (2) 実施期間等

- ア 頻度 月1回程度、個別または集団で実施
- イ 時間 1回につき2時間程度

#### (3) 修了基準

第1回～第6回のプログラムに参加された方

\*修了者には「修了証」を配布

(4) 費用  
無料

(5) 内容

第1回	あなたのギャンブルについて整理してみましょう
第2回	引き金から再開にいたる道すじと対処
第3回	再開を防ぐために
第4回	私の道しるべ
第5回	回復への道のり
第6回	【アンコールセッション】回復のために～正直さと仲間～

### 3 実績

参加者数（主なギャンブル等の種目別内訳、件数には重複を含む）

	主なギャンブル等の種目							合計
	パチンコ スロット	競馬	競艇	競輪	カジノ (オンライン含む)	金融 取引	その他	
実人数	15	6	6	3	2	3	2	37

※うち年度内の初回修了者8名

区分	実人員	延人員		
		集団実施	個別実施	計
男	35	102	5	107
女	2	1	2	3
合計	37	103	7	110

## 依存症家族教室

### 1 趣旨

身近な方のアルコール・薬物・ギャンブルに関する問題でお困りの方を対象に、精神科医師の講話や当事者・家族らの体験談等を通して、依存症についての正しい知識を身につけ理解を深めることを目的とするもの。

### 2 実績

第1クール	実施日	内容	講師	参加
第1回	6月26日	アルコール・薬物・ギャンブル 依存症について	西山クリニック医師	25名
第2回	7月29日	本人の体験談 家族の体験談	ギャンブル依存症当事者/ 当事者の家族	16名
第3回	8月26日	本人の体験談 家族の体験談	アルコール・薬物依存症当事者/ 当事者の家族	9名

第2クール	実施日	内 容	講 師	参 加
第1回	9月24日	希望をつなく家族のかかわり	公認心理士/臨床発達心理士	11名
第2回	10月28日	共依存を手放して～自分を大切に～	アディクションカウンセラー	17名
第3回	12月3日	依存症とのかかわり方を理解する	精神科医師	20名
延べ人数合計				98名

## 依存症家族のつどい

### 1 趣旨

依存症の問題を抱える方のご家族を対象に、家族相互の交流、情報交換を図ることを目的として開催するもの。

### 2 実績

対 象	平成30年度以降に、薬物・アルコール・ギャンブル等の依存症相談で来所されたご家族				
会 場	名古屋市精神保健福祉センター				
内 容	CRAFT勉強会と交流会を実施				
実施日		前期 ＜第1クール＞	参加 実（延）	後期 ＜第2クール＞	参加 実（延）
	第1回	4月8日	3（3）名	10月7日	1（5）名
	第2回	5月13日	6（8）名	11月11日	2（5）名
	第3回	6月3日	1（5）名	12月9日	2（8）名
	第4回	7月3日	5（8）名	1月6日	2（6）名
	第5回	8月5日	0（6）名	2月3日	2（7）名
	第6回	9月2日	0（6）名	3月3日	3（9）名
	前期小計		15（36）名	後期小計	12（40）名
	実（延）人数合計				27（76）名

### 3 主たる依存対象別の相談対象者からみた参加者の続柄

参加者数（実）

	配偶者	父母	その他
アルコール	3	1	0
薬 物	0	1	1
ギャンブル	3	14	2
そ の 他	0	2	0

# ひきこもり地域支援センター

## 1 趣旨

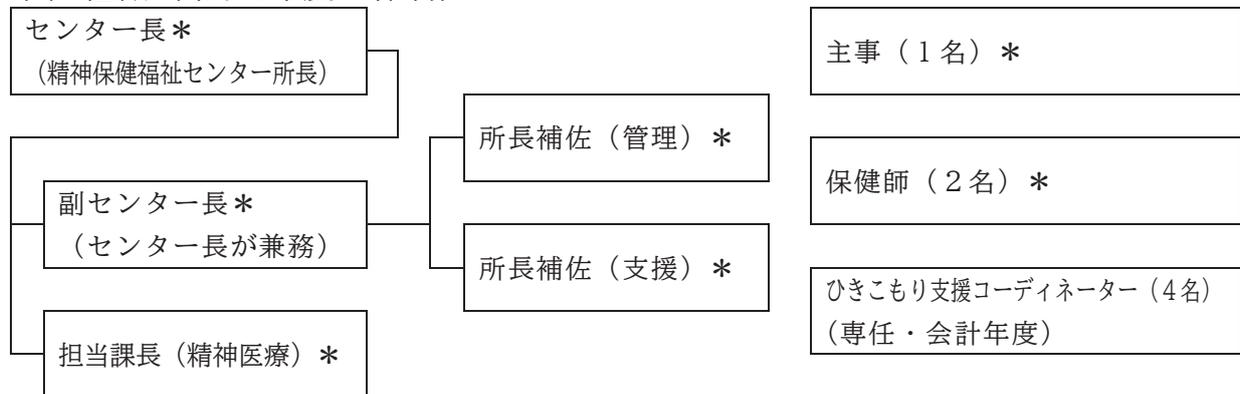
専門の「ひきこもり支援コーディネーター」を4名配置し、ひきこもりのご本人やご家族等の相談を行うとともに、関係機関との連携強化を目的とした会議や関係機関の職員等を対象とした研修や、パンフレットの発行等ひきこもりに関する普及啓発を行い、ひきこもりのご本人やご家族への支援の充実を図るもの。

## 2 概要

### (1) 名称及び開設

- ア 名称：名古屋市ひきこもり地域支援センター
- イ 開設：平成24年5月14日
- ウ 場所：名古屋市精神保健福祉センターこころば内
- エ 時間：月曜日～金曜日 8:45～17:15（祝日・年末年始は除く）

### (2) 組織（令和6年度の体制）



\*精神保健福祉センター兼務

## 3 主な事業内容

- (1) ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談
  - ・来所相談（初回相談・継続相談・特定相談）
  - ・電話相談
  - ・出張相談
- (2) 家族支援
  - ・ひきこもり家族教室の開催
  - ・ひきこもりを考える家族のつどいの開催
- (3) 居場所「ねこもりルーム」の運営
- (4) ひきこもり関係機関等の支援・連携
  - ・ひきこもり支援セミナーの開催
  - ・ひきこもり支援関係団体連絡会議の開催
  - ・各種事例検討会、ケース会議等への参加
- (5) ひきこもりに関する普及啓発および情報発信
  - ・ひきこもり支援ガイドマップの作成
  - ・家族向けパンフレット、ひきこもりコミュニケーションプログラム等の作成
  - ・ひきこもり講演会の開催
  - ・ひきこもり地域支援センターロゴマーク及び啓発物品の作成

(6) その他

- ・ひきこもり支援サポーター養成研修・フォローアップ研修の開催
- ・ひきこもり支援サポーター派遣事業の実施

ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談

1 趣旨

市内在住のひきこもり状態にあるご本人やご家族等を対象に臨床心理士や社会福祉士等の資格を持つ専任のひきこもり支援コーディネーターによる面接相談を実施するもの。

初回面接相談時には、医師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理士、社会福祉士等の多職種による合議を行い、支援方針を決定している。

また、継続相談利用者のうち、必要に応じて、精神科医や司法書士による特定相談を実施している。

2 実施状況

(1) 相談方法

来所相談	初回相談：随時、予約制 継続相談：随時、予約制 特定相談：毎月1～2回
電話相談	随時
出張相談	訪問、同行などによる相談（※）

（※）すべての方を対象としたものではなく、相談者の状況により相談方法を検討していきます。

(2) 実績

ア 相談件数

相談件数	<内訳>				
	来所相談	電話相談	出張相談	特定相談	債務相談
実（延）	実（延）	実（延）	実（延）	実（延）	実（延）
562（3,077）	216（1,113）	281（1,808）	38（122）	24（31）	3（3）

イ 相談件数（実）の男女別（相談対象者での計上）

	相談件数	<内訳>				
		来所相談	電話相談	出張相談	特定相談	債務相談
男	376	152	176	28	19	1
女	171	62	92	10	5	2
その他	15	2	13	0	0	0
計	562	216	281	38	24	3

ウ 相談件数の推移

		R2	R3	R4	R5	R6
来所 (特定相談含む)	実	156	191	215	207	243
	延	599	679	871	887	1,147
電話	実	206	260	294	330	281
	延	540	808	972	1,526	1,808
出張	実	9	26	35	24	38
	延	45	58	103	75	122
計	実	371	477	544	561	562
	延	1,184	1,545	1,946	2,488	3,077

エ 初回来所者と相談対象者との続柄

本人	母	父	両親	兄弟 姉妹	その他	計
63	73	16	36	7	21	216

(※その他内訳：祖母、夫、従妹、友人、知人など)

オ 相談対象者の年齢構成（初回来所相談時）

15歳未満	15～19歳	20代	30代	40代	50代以上	不明	計
1	16	71	64	36	25	3	216

カ ひきこもりになってからの期間（初回来所相談時）

1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上	不明	計
26	67	46	29	37	11	216

(3) 関係機関連携実績（延数）

福祉事務所	保健センター	子ども・若者 総合相談センター	若者自立支援 ステップアップ事業	なご サポ	障害者基幹 相談支援センター	いきいき 支援センター	包括的 相談支援チーム	社協
18	32	6	2	10	9	12	35	41

医療機関	民間支援団体	仕事・暮らし サポートセンター	就労継続 A型・B型	ハローワーク	就労移行支援	その他 就労関係	ひきせん金山	その他	計
18	2	47	14	30	38	33	16	36	399

## ひきこもり家族教室

### 1 趣旨

ひきこもり地域支援センターへの相談に結びついているご家族に限らず、広くひきこもりに悩むご家族を対象に、ひきこもりに関する正しい知識を学び、家族としてできることや本人へのより良い対応を考える機会を提供するもの。

### 2 実績

実施日	内 容	参 加
第1回 10月10日	(1) 講話「ひきこもりの理解と対応」 講師：ひきこもり地域支援センター職員 (2) 交流会	11名
第2回 10月25日	(1) 講話「ひきこもりと精神科医療」 講師：名古屋大学 総合保健体育科学センター 准教授 古橋忠晃 氏 (2) 交流会	11名
第3回 11月27日	(1) 講話「ひきこもり経験者・家族からのメッセージ」 講師：一般社団法人 若者支援事業団 (2) 交流会	8名
第4回 12月12日	(1) 講話「支援機関を知ろう」 講師：KHJ・NPO法人なでしこの会 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター名駅 (2) 交流会	7名

※第1・3・4回は、ひきこもり支援サポーター養成研修と同時開催とした。

## ひきこもりを考える家族のつどい

### 1 趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族を対象に、勉強会や家族同士の交流を通して、ご家族の対応や周囲の関わりについて考え、新しい視点や情報を共有し、ご家族自身が問題を解決する意欲を高めることができるように開催するもの。

### 2 実績

実施日	内 容	参 加
第1回 4月15日	交流会&テーマについて意見交換	13家族 (13名)
第2回 5月20日	勉強会「DVDひきこもりからの回復」を視聴しよう& 交流会	19家族 (19名)
第3回 6月17日	勉強会「ひきこもりVOICE STATION」を視聴しよう& 交流会	17家族 (17名)
第4回 7月22日	交流会&テーマについて意見交換	16家族 (16名)
第5回 8月19日	交流会&テーマについて意見交換	15家族 (16名)

第6回 9月9日	交流会&テーマについて意見交換	11家族 (11名)
第7回 9月30日	生活に役立つセミナー（オンライン開催） 講義『顔出ししなくても働ける リモートワークという働き方』 講師：株式会社ウチらめちゃ細かいんで	23家族 (27名)
第8回 10月21日	講義『9060 問題にならないために今からできる3つのこと』&交流会 講師：一般社団法人 OSD よりそいネットワーク	19家族 (21名)
第9回 11月18日	講義『一緒に考えてみましょう。発達障害と生きる力』 &交流会 講師：精神科医師	28家族 (32名)
第10回 12月2日	生活に役立つセミナー（オンライン開催） 講演『ひきこもり経験者からのメッセージ』 講師：自助グループ 低空飛行net	28家族 (29名)
第11回 12月23日	交流会&テーマについて意見交換	12家族 (12名)
第12回 1月20日	「オープンダイアログ 家庭での対話の仕方」 &交流会	16家族 (18名)
第13回 2月17日	講師：相談室けいこふゆひこ	21家族 (24名)
第14回 3月17日	交流会&テーマについて意見交換&1年の振り返り	16家族 (18名)

## 居場所「ねこもりルーム」の運営

### 1 趣旨

本事業は、対象者等が集まり、各々の状態を他者との関係の中で把握し、自己肯定感を高めるとともに、居住する家から外出するきっかけとなることを目的とする。

### 2 実績

ひきこもり地域支援センター居場所利用（令和6年6月居場所開設）

区分	実施回数	実人員	延人員
男	41	17	58
女		8	38
その他		0	0
合計	41	25	96

## ひきこもり支援関係機関との連絡調整等

### 1 ひきこもり支援セミナー

#### (1) 趣旨

ひきこもりに悩むご本人やご家族等への支援活動を行っている機関・団体等の職員等に対して、ひきこもり支援に関する知識と理解を深め、支援の質を向上させることを目的として開催するもの。

#### (2) 実績

ア 対象：市内のひきこもり支援関係機関・団体（保健センター・社会福祉協議会・いきいき支援センター・障害者基幹相談支援センター・雇用関係機関・その他関係団体）

#### イ 内容等

実施日	内 容	参 加
第1回 7月2日 (オンライン開催)	講演「全世代の「ひきこもり」支援に望まれるもの ～家族支援の重要性～」 講師：NPO法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 本部 事務局長 上田 理香氏	69名
第2回 7月30日 (対面開催)	講演「ひきこもり支援の連携を考える」 講師：NPO法人 まちかどサポートセンター 北部ステップアップルームみらいe. 北保健センター	22団体 27名
参加延べ人数		96名

### 2 ひきこもり支援関係団体連絡会議

#### (1) 趣旨

ひきこもりのご本人やご家族等への支援活動を行っている団体等と関係行政機関の連携を強化することを目的として開催するもの。

#### (2) 実績

ア 会場：名古屋市精神保健福祉センター

#### イ 内容等

第1回 8月16日	内 容	ア 名古屋市からの報告 イ 各ひきこもり支援団体・行政機関の取り組み状況について意見交換、グループワーク
	参 加	39名（26機関） 内訳：行政機関等28名（17機関） ひきこもり支援団体11名（9団体）
第2回 2月5日	内 容	ア 名古屋市より報告 イ 重層的支援体制整備事業に関する報告 ウ グループワークおよび意見交換支援機関同士が協働して できることについて考えてみよう エ 各ひきこもり支援団体からの連絡等
	参 加	45名（30機関） 内訳：行政機関等34名（21機関） ひきこもり支援団体11名（9団体）

## 1 名古屋ひきこもり支援ガイドマップ

### (1) 趣旨

ひきこもりのご本人やご家族、支援関係者等を対象に、ひきこもり支援団体等の概要や相談窓口の社会資源等の情報を提供するガイドマップを発行するもの。

### (2) 実績

名 称	令和6年10月版 名古屋ひきこもり支援ガイドマップ
対 象	ひきこもりのご本人やご家族、関係機関
発行部数	2,500部
発行月	令和6年10月

## 2 家族向けパンフレット

### (1) 趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族等を対象として、基本的な対応方針やコミュニケーションのポイントやひきこもりからの回復過程、支援機関に誘うタイミング、相談窓口の情報等を掲載したパンフレットを発行するもの。

### (2) 実績

名 称	ひきこもりでお悩みのご家族の方へ
対 象	ひきこもりのご本人やご家族、関係機関
発行部数	令和4年度版400部増刷、令和6年度版3,000部発行
発行月	令和7年3月（令和6年度版）

## 3 家族向けひきこもりコミュニケーションプログラム

### (1) 趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族等を対象として、①今の状況を客観的に評価する、②ご家族の生活にゆとりを取り戻す、③ご本人とのコミュニケーションの取り方を学ぶことを目的としたプログラムを発行するもの。

### (2) 実績

令和6年度は、相談に来所したご家族や各関係機関に配布し活用した。

## 4 ひきこもり講演会

### (1) 趣旨

ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情への理解を深め、家族・支援者・地域それぞれの立場でできること等を考える機会とし、ひきこもり地域支援センター等へ早期に相談するきっかけとなることを目的として開催するもの。

平成24年度のひきこもり地域支援センター開設以降、ひきこもりに関する相談は増加していることから、更なる普及啓発活動をすすめるため、平成19年度から3年間開催していたひきこもり講演会を平成27年度から再開し、以後毎年実施している。

## (2) 実績

対 象	ひきこもり支援に関心のある方
実 施 日	9月14日
会 場	名古屋市港文化小劇場
内 容	講演 「ひきこもるこころを理解する～経験者が語るひきこもり～」 講師：一般社団法人ひきこもりUX会議 代表理事 林 恭子 氏 経験者 辰巳 将貴 氏、星野（仮名）氏
参 加	138名 後日動画配信視聴数 614名

## 5 ひきこもり地域支援センターロゴマーク及び啓発物品の作成

### (1) 趣旨

当センターの認知度を高めるため、ひきこもり地域支援センターロゴマーク及び啓発物品を作成し普及啓発するもの。

### (2) 実績

令和6年度は、市ウェブサイトへロゴマークの掲載、各種会議や事業開催時に普及啓発品を配布した。

## ひきこもり支援サポーター養成研修

### 1 趣旨

一般市民を対象に、ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情への理解を深め、地域社会でできること等を考えることを目的として実施するもの。平成28年度より実施している。

令和元年度は、民生委員・児童委員及びいきいき支援センター職員を対象として実施したが、令和2年度以降は従前の一般市民を対象とする研修に形式を戻し実施している。

### 2 実績

実施日	内 容	参加
第1回 10月10日	(1) 講話「ひきこもりの理解と対応」 講師：ひきこもり地域支援センター職員 (2) オリエンテーション、交流会	14名
第2回 10月17日	(1) 講話「傾聴と話し方」 講師：臨床心理士 小石亜希子 氏 (2) フリーの交流	13名
第3回 11月27日	(1) 講話「ひきこもり経験者・家族からのメッセージ」 講師：一般社団法人 若者支援事業団 (2) フリーの交流	11名
第4回 12月12日	(1) 講話「支援機関を知ろう」 講師：KHJ・NPO法人なでしこの会 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター名駅 (2) 交流会、登録についての説明	7名

※第1・3・4回は、ひきこもり家族教室と同時開催とした。

## ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修

### 1 趣旨

ひきこもり支援サポーターとして登録された方を対象に、ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情へのさらなる理解を深めることを目的として実施するもの。平成29年度より開催している。

### 2 実績

実施日	内 容	参加
第1回 7月2日	ひきこもり支援セミナー第1回への出席	5名
第2回 7月30日	ひきこもり支援セミナー第2回への出席	3名
第3回 2月28日	(1) 講義「WRAP®」について学ぼう 講師：特定非営利活動法人草のネット 名古屋市作業所型地域活動支援事業所くさのねっと 亀沖 昌睦 氏 (2) 交流会	12名

## ひきこもり支援サポーター派遣事業

### 1 趣旨

ひきこもり支援サポーター養成研修を受講し、ひきこもり支援サポーターとして登録された者を派遣し、ひきこもり事業への参加・協力等を通してひきこもりへの理解を深めるとともに、地域でできることを考え、ひきこもりのご本人やご家族等への支援を行うこと等を目的として実施するもの。

### 2 実績

活動内容	回数	派遣人数
「ひきこもりを考える家族のつどい」における運営補助	11回	延20名
ひきこもり当事者の居場所活動における補助	3回	3名
9月14日「ひきこもり講演会」における運営補助	1回	3名
3月23日「ひきこもり支援講演会」（ひきこもり地域支援センター金山主催）におけるサポート	1回	4名



名古屋市精神保健福祉センター所報  
第24巻 令和6年度版(2024年度版)

発行日 令和7年9月  
発行 名古屋市  
編集 名古屋市精神保健福祉センター